

令和5年度公益財団法人せたがや文化財団の経営状況に関する書類の提出

1. 実施事業

世田谷文化生活情報センター / 生活工房		世田谷文化生活情報センター / 音楽事業部	
続・セタガヤマ展 小さなメディアの40年	14,576人	シリーズ和・華・調	303人
牧野伊三夫展 塩と杉	10,665人	せたがや音楽研究所	332人
映像のフィールドワーク展 vol.2 ひもをうむ、あむ、くむ、むすぶ	25,655人	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	200人
あみきをほどく 家庭用編み機の展覧会	15,342人	室内楽シリーズ	872人
共催展示 世田谷のまちと暮らしのチカラ まちづくりの歩み50年	11,480人	せたがやジュニアオーケストラ運営	94人
生活工房常設展示	39,044人	せたがやまちかど・まちなかコンサート、連携コンサート、異分野との コラボレーション ほか	
若年層向けセミナー「どう？就活」、対話型セミナー「こども・おや・じぶん 親子関係を生きる君へ」、「せたがやアカカブの会」、「エトセトラ の時間」、「ちかくのとーく」 ほか			
総入場者数	152,692人	総入場者数	7,488人
世田谷文化生活情報センター / 世田谷パブリックシアター			
白井晃演出作品『ある馬の物語』	7,768人	日・イスラエル外交関係樹立70周年 インバル・ピント『リビングルーム』	1,522人
前川知大演出作品『無駄な抵抗』	7,804人	海外招聘ダンス公演 Ate9『Exhibit B』『Calling Glenn』	1,045人
横山拓也作・瀬戸山美咲演出作品 『う蝕』	6,467人	フリーステージ(音楽部門・ダンス部門・バレエ部門)、移動劇場『@ホーム 公演』、学校のためのワークショップ、こどもプロジェクト2023『カラフル 』『メルセデス・アイス』『せたがや夏いちらくご』『エアー～不思議な空 の旅』、アートタウン関連企画「フィアース5」、地域の物語 ほか	
森新太郎演出作品 『メディア/イアソン』	10,320人	総入場者数	211,081人
世田谷文化生活情報センター / 国際事業部			
せたがや国際交流センターの運営	4,865人	多文化理解講座	351人
やさしい日本語でまち歩き	29人	地域活動団体との連携事業(イベント・講座などの合同実施、せたが や国際交流センターにおける団体紹介等) ほか	
にほんご交流会	244人	総入場者数	8,142人
世田谷美術館		世田谷文学館	
世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち	2,517人	石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ	21,298人
麻生三郎展 三軒茶屋の頃、そしてベン・シャーン	5,509人	どっせい！ねこまたずもう～夏場所～	7,064人
マルク・シャガール 版にのした光の詩 神奈川県立近代美術館コレクションから	23,040人	江口寿史展 ノット・コンプリートッド	19,018人
土方久功と柚木沙弥郎 ―熱き体験と創作の愉しみ	10,725人	コレクション展前期 没後50年・椎名麟三と「あさって会」	3,836人
倉俣史朗のデザイン ―記憶のなかの小宇宙	43,505人	コレクション展後期 衣裳は語る ―映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事	8,369人
美術家たちの沿線物語 小田急線篇	7,127人	ライブラリー「ほんとなわ」の運営	17,997人
本館ミュージアム コレクション(前年度からの継続含め 年4回)、各分館収蔵品展(年2回)	68,550人	どこでも文学館(出張展示、ワークショップなどの教育 普及事業)	254,374人
講座・ワークショップ、鑑賞教室 ほか		石黒亜矢子展関連事業(都市ボーイズ「怪奇オカルトショー」、おお雨・ ライブ「化け猫ロック」)、江口寿史展関連事業(江口寿史サイン会、ラ イブドローイング) ほか	
総入場者数	287,092人	総入場者数	343,871人

2. 損益計算書(正味財産増減計算書)

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

2

科 目		公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引 消去	合計
		公1	公2	小計	収1	収2	小計			
		文化芸術の振興、 地域文化創造活動 の支援及び教育普 及に関する事業	市民活動の支援 及び 振興に関する事業		物品販売事業	飲食物提供事業				
I 一般正味財産の部										
1 経常増減の部										
(1)経常収益										
	基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,547,228		2,547,228
	特定資産運用益	1,082,140	0	1,082,140	0	0	0	0		1,082,140
	事業収益	1,372,017,724	531,565	1,372,549,289	45,487,754	3,056,445	48,544,199	0		1,421,093,488
	受取区補助金	1,162,581,836	40,802,000	1,203,383,836	0	0	0	0		1,203,383,836
	受取助成金等	119,106,204	0	119,106,204	0	0	0	0		119,106,204
	受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0		0
	受取負担金	11,726,737	0	11,726,737	393,920	6,000,264	6,394,184	0		18,120,921
	雑収益	194,903	0	194,903	0	0	0	0		194,903
経常収益計(A)		2,666,709,544	41,333,565	2,708,043,109	45,881,674	9,056,709	54,938,383	2,547,228		2,765,528,720
(2)経常費用										
	事業費	2,685,281,609	41,344,240	2,726,625,849	28,303,796	7,019,229	35,323,025			2,761,948,874
	管理費			0			0	6,776,141		6,776,141
経常費用計(B)		2,685,281,609	41,344,240	2,726,625,849	28,303,796	7,019,229	35,323,025	6,776,141		2,768,725,015
当期経常増減額(C)=(A-B)		△ 18,572,065	△ 10,675	△ 18,582,740	17,577,878	2,037,480	19,615,358	△ 4,228,913		△ 3,196,295
2 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計(D)		0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用										
経常外費用計(E)		25,895	0	25,895	557,504	0	557,504	0		583,399
当期経常外増減額(F)=(D-E)		△ 25,895	0	△ 25,895	△ 557,504	0	△ 557,504	0		△ 583,399
他会計振替前当期一般正味財産増減額(G)=(C+F)		△ 18,597,960	△ 10,675	△ 18,608,635	17,020,374	2,037,480	19,057,854	△ 4,228,913		△ 3,779,694
他会計振替額(H)		9,764,349	0	9,764,349	△ 8,720,440	△ 1,043,909	△ 9,764,349	0		0
法人税、都民税及び事業税(I)		0	0	0	1,543,349	184,751	1,728,100	0		1,728,100
当期一般正味財産増減額(J)=(G+H-I)		△ 8,833,611	△ 10,675	△ 8,844,286	6,756,585	808,820	7,565,405	△ 4,228,913		△ 5,507,794
一般正味財産期首残高(K)		667,231,873	27,814,606	695,046,479	137,089,067	15,540,738	152,629,805	△ 1,311,531		846,364,753
一般正味財産期末残高(L)=(J+K)		658,398,262	27,803,931	686,202,193	143,845,652	16,349,558	160,195,210	△ 5,540,444		840,856,959
II 指定正味財産の部										
	受取寄附金	618,812	0	618,812	0	0	0	0		618,812
	基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,547,228		2,547,228
	一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	2,547,228		2,547,228
	当期指定正味財産増減額(M)	618,812	0	618,812	0	0	0	0		618,812
	指定正味財産期首残高(N)	8,172,166	0	8,172,166	0	0	0	800,000,000		808,172,166
	指定正味財産期末残高(O)=(M+N)	8,790,978	0	8,790,978	0	0	0	800,000,000		808,790,978
III 正味財産期末残高(P)=(L+O)		667,189,240	27,803,931	694,993,171	143,845,652	16,349,558	160,195,210	794,459,556		1,649,647,937

令和5年度
公益財団法人せたがや文化財団

事業報告書
財務諸表

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

公益財団法人 せたがや文化財団

目 次

(事業報告書)

1	令和5年度事業報告総括	1
2	事業実績	11
3	事業評価	46
4	重要な契約の概要	51
5	登記事項	52
6	理事会・評議員会開催状況	53
7	役員名簿	55
8	評議員名簿	56
9	財団幹部名簿	57

(財務諸表)

1	貸借対照表	60
2	損益計算書（正味財産増減計算書）	61
3	附属明細書	76
4	財産目録	77

(監査報告)

監査報告書	80
-------------	----

事業報告書

1. 令和5年度事業報告総括

(1) 財団全体の取組

せたがや文化財団は、世田谷区の文化・芸術振興におけるパートナーとして、財団の定款の目的に掲げる「幅広い文化・芸術事業の展開と多様な文化創造活動や市民活動などの支援」の実現に向け、取組みを進めてきた。

令和5年度のせたがや文化財団は、コロナ禍による影響が残る中、各館の状況に応じた創意工夫などにより、財団全体での施設入場者・事業参加者数は2年連続で100万人を超えるものとなった。このうち、世田谷パブリックシアターでは、6～7月の音楽劇『ある馬の物語』、11月の『無駄な抵抗』、2～3月の『う蝕』は、いずれの作品ともツアー公演も実施し、好評を得た。特に、『無駄な抵抗』は読売演劇大賞において多くの賞を受賞した。世田谷美術館の企画展では、オンラインチケット販売の枠を徐々に緩める運営を行い、酒井前館長のもとでの最後の展示となった「美術家たちの沿線物語 小田急線篇」は、これまでの＜美術家たちの沿線物語＞の集大成となる最終章として開催した。世田谷文学館の2本の企画展は、いずれも絵本、漫画・イラストで活躍中の作家たちであり、これまでの足跡に加えて今後の活動も予感させる現在進行形の展覧会となった。また、他の団体や財団内部の連携による事業として、区のまちづくりの歴史等を紹介した生活工房での展示、前述した世田谷パブリックシアターの『ある馬の物語』における白井晃芸術監督と文学館の亀山館長とのトークイベントの併催、音楽事業部と世田谷文学館との連携で実現した人気漫画家による11年ぶりのライブ、音楽事業部と国際事業部、世田谷美術館の連携によるインド音楽と踊りによる講座の開催などに取り組んだ。財団では引き続き、コンプライアンス方針に基づき社会的責任を果たすべく、働きやすい職場の実現と公正な業務の遂行に努めた。世田谷パブリックシアターでは、ハラスメント防止ガイドラインを公開し、ハラスメント防止に向けた取組みを行っていくこととした。財務面では、公益目的事業比率(注)は概ね98%であった。損益は、経常収益が27億6,552万余円、経常費用が27億6,872万余円で、当期経常増減額は319万余円の減となった。

国際紛争は拡大し、世界は混迷の真っ只中にある。円安の進行や諸物価の高騰など、先の見通せない社会状況が続いている。このような時だからこそ、財団は、文化・芸術が持つ力を最大限に発揮し、人々を繋ぎ、次世代が希望を持ち続けるための一助となるような取組みを、区とともに進めていく。

(注)公益目的事業比率：公益法人の活動全体における公益目的事業活動の割合がその費用額において、50%以上であることを求めるもの(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第15条)

各事業部の事業参加者・施設入場者数の推移(人)

年度	生活工房	パブリックシアター	音楽事業部	国際事業部	世田谷美術館	世田谷文学館	合計
令和 5(2023)	152,692	211,081	7,488	8,142	287,092	343,871	1,010,366
令和 4(2022)	159,741	214,182	6,350	7,056	352,362	375,167	1,114,858
令和 3(2021)	212,399	147,748	2,608	5,047	276,315	270,977	915,094
令和 2(2020)	44,163	100,974	3,189	2,214	151,349	165,620	467,509
令和元(2019)	113,845	228,234	5,331	—	259,088	252,502	859,000

(オンライン参加者数を含む。世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は含まず)

(2)各事業部事業

《世田谷文化生活情報センター》

① 生活工房

生活工房は、「暮らしとデザインの交流拠点」として、生活・文化を幅広い視野で捉え、デザインやアート、生活文化をテーマに独自の視点で掘り起こす展覧会や、暮らしや生きることを見つめ直し、様々な人たちが交流・対話する場となるセミナーやワークショップ等を実施した。施設の維持管理を適切に行い、運営にあたっては、来場者が快適な時間を過ごせるような環境づくりに努めた。大学や、様々な市民活動団体とも連携し、多くの方が文化・芸術に触れあう機会を広げた。ホームページや情報誌で事業を広報するとともに、様々な創作・表現活動に取り組む人たちの魅力を伝え、積極的な情報発信に取り組んだ。映像アーカイブの活用や、動画コンテンツの一層の充実も図った。

公1-2「文化芸術の啓発、体験に資する展覧会」

画家・牧野伊三夫が、製塩所や林業など、自然と人間をつなぐ営みを見つめるなかから生まれた作品と活動を紹介する「牧野伊三夫 塩と杉」展では、作家のライフスタイルや幅広い活動を紹介した。

「20世紀の映像百科事典をひらく 映像のフィールドワーク展 Vol.2 ひもをうむ、あむ、くむ、むすぶ」展は、ものづくりの原点である「ひもづくり」にまつわる貴重な映像と、葦舟や多種の素材を展示した。映像を見ながら創作するワークショップも多数実施した。

「暮らし」と「編むこと」の関わりを辿り、現代のクリエイターの作品も紹介する「あみきをほどく 家庭用編み機の展覧会」は、貴重な編み機や作品の展示とあわせ、編み機を体験できる会場ツアーやトークイベントなどを実施した。

世田谷で発達した生活文化の一つである住民参加のまちづくりの活動と、そこで繰り広げられてきた暮らしを紹介する「世田谷のまちと暮らしのチカラ まちづくりの歩み50年」を、(一財)世田谷トラストまちづくりほかとの実行委員会主催により実施した。世田谷区のまちづくりの歴史や、地域での活動を、年表、模型、資料、活動記録映像で紹介した。

常設の展示コーナーでは、区内で収集した8ミリフィルムのアーカイブ「世田谷クロニクル」の中から、月替わりで作品を上映した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

子ども、親、自分という3つの視点から自らを見つめ直すことをテーマにしたセミナー「こども・おや・じぶん 親子関係を生きる君へ」を実施した。

「老人性アメイジング！ 寿ぐ老いとベートーヴェン」は、1回目はユーモア溢れる介護トークと「老いと芸術」をテーマにした講演、2回目はベートーヴェン晩年の弦楽四重奏曲の生演奏と、“老い小唄”を交えながら作品の魅力を紐解き、「老い」がもたらす豊かで自由な人間像を探る、というユニークなプログラムとなった。

若い世代向けに令和3年度から開催している「働くこと」や「生き方」について考えるワークショップ「どう？就活 自分と仕事の出会い方」の第3回として、様々な分野で活躍中のゲストの話や、参加者同士の対話を通じて、多様な生き方、働き方の可能性について考えるセミナーを実施した。

夏休み期間には、ギャラリー展示の関連ワークショップのほか、オンラインでのおはなし会、絵本作家のトークを実施するなど、親子や子ども向けのワークショップを多く実施した。

8ミリフィルム映像のアーカイブの活用を進める「穴アーカイブ」では、映像を囲む場「アカカブの会」を実施した。また目の見える人と見えない人が一緒に映像を鑑賞するオンライン・ワークショップ「エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会」を実施した。

事業アーカイブの充実と活用促進にも力を入れ、セミナーやワークショップの記録動画を順次公開した。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

事業や施設について常に的確な情報を届けるため、ウェブサイトや館内掲示等を随時更新した。ウェブサイトの記事を充実させ、暮らしの中にある様々な創作・表現活動の魅力を伝えた。メディアへの情報提供とともにSNSも活用し、効果的な情報発信に取り組んだ。

情報誌「季刊 生活」や年次報告書「アニュアルレポート」を編集、発行した。情報と共に紙媒体のデザインの魅力を伝える体裁や装丁とした。

公1-8「文化芸術の拠点施設の管理運営」

指定管理者として、セミナールーム AB、ワークショップルーム AB の管理運営、貸館業務を適切に行った。音響や可動壁、備品のメンテナンスと修繕を行い、設備の長寿命化と、利用者が安全で快適に利用できる環境の維持を図った。

来場者・利用者を適切にサポートするため、施設に関する情報の随時更新と提供、職員間での情報共有を行い、サービスの向上にも努めた。

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

世田谷区内で活動する市民活動団体の支援を目的に、運営団体と協働し、「市民活動支援コーナー」の管理運営を行った。イベントでは、世田谷区内で地域に貢献する活動に取り組む団体や個人を囲むトークイベント「ちかくのとーく」を、対面とオンラインでシリーズ開催した。また、世田谷区内を中心に制作活動をしているアーティストを講師として、夏休み期間中に子どもたちに向けたものづくりワークショップを行った。

② 世田谷パブリックシアター

世田谷パブリックシアターは、1997年に開場し、主劇場（世田谷パブリックシアター）とシアタートラムの2つの劇場と大小3つの稽古場を中心に、「新しい作品とレパートリーの創造」、「国際的な共同制作」、「地域や学校そのほかの区内施設との連携」、「普及啓発・人材養成事業」、「国内の公共劇場との連携」等を柱に、国内外に発信する創造型の公共劇場として活動している。令和4年度から芸術監督が白井晃に交代し、新たな展開を図っている。

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

国内演劇創作事業として、主劇場で3本、シアタートラムで1本の作品を上演した。主劇場では6～7月に音楽劇『ある馬の物語』、11月に『無駄な抵抗』、3月に『メディア/イアソン』を上演。トラムでは2～3月に『う蝕』を上演した。これらの作品は全てツアー公演を実施し、好評を得た。令和5年度は年度途中で新型コロナウイルスが感染症法上5類に分類変更となり、コロナ対応も大きな節目を迎えることとなったが、国内では感染症を原因とする公演中止が発生する状況が続いたことから、引き続き感染症対策を徹底して事業を実施するとともに、一部公演ではアンダースタディ（代役）を準備するなどの工夫を凝らすことで、中止公演を出すことなく舞台成果を最後まで観客に届けることができた。

上演作品はいずれも観客動員もよく、また演劇界から高い評価をいただいた。特に『無駄な抵抗』は第31回読売演劇大賞において、最優秀女優賞(池谷のぶえ)、優秀演出家賞(前川知大)、優秀スタッフ賞(土岐研一)を受賞し、公共劇場発の作品として最も多くの賞を受けた。白井晃芸術監督が自ら演出した『ある馬の物語』では、世田谷文学館の亀山館長と白井芸術監督のトークイベントを併催するなど、多角的な取り組みを実施した。

夏休み期間には、“こどもプロジェクト”として、夏の定番事業として定着してきた春風亭一之輔プロデュースによる寄席企画『せたがや夏いちらくご』を実施。さらに、世田谷パブリックシアターとして初めて制作したオリジナルミュージカル作品『カラフル』、芸術監督演出作品『メルセデス・アイス』と充実したラインナップを届けた。これらの作品の上演にあたっては文化庁アートキャラバン事業や子供舞台芸術鑑賞体験支援事業などの補助金を活用するなど、積極的にファンドレイズを行った。

ダンス/演劇の提携公演についても、劇場側で感染症対策を徹底したことも奏功し、ほぼ計画通り実施することができた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

コミュニティプログラムや学校プログラムは、新型コロナウイルスの影響が最も大きかった事業の一つであるが、5類への移行を踏まえ、コロナ以前の規模・頻度への復旧に取り組んだ。ただし、単純にコロナ前に戻すということではなく、コロナ禍の中での事業実施によって蓄積された経験や知見も活用し、事業の見直しや再検討をあわせて実施した。

開場以来の区民参加型企画「地域の物語」は、令和5年度は世田谷区内の社会福祉法人や障害当事者の方々と連携して作ってきた作品の上演を中心に据えた企画とし、これまでを振り返り、将来の方向性を探った。

学校でのワークショップなど、劇場外での事業もコロナ前の状況にかなり近いところまで回復してきた。地域連携プログラムとして劇場近隣の下馬地区で実施しているアートプロジェクト「極楽フェス」は地域のお祭として定着し、多くの参加者を得た。また、「極楽フェス」を契機として制作した障害当事者のライフヒストリーを演劇化した『ともにやの部屋』が文化庁ユニバーサル公演事業として採択され、日本全国で上演を行った。

高齢者施設や障害者施設を訪問して行う「移動劇場@ホーム公演」は、コロナ禍の中では特製DVDを作成して配布するなどの代替策を取らざるを得なかったが、令和5年度から訪問上演を本格的に再開することができた。区教育委員会からの受託事業「古典芸能鑑賞教室」は、新世田谷区民会館の開館が遅れたこともあり、令和4年度に続いて学校の体育館に向く形で実施した。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

開場以来、区民が舞台に立つ機会として恒例となってきた「フリーステージ」は、出演者間の感染予防に細心の注意を払いつつも、新規団体の募集を再開するとともに観客席は自由席に戻し、ほぼコロナ前の状態に復することができた。

また、若手実演家育成事業「シアタートラム・ネクストジェネレーション」は、応募者が固定化する傾向が見られたこともあり、「フィジカル」と「ドラマ」の2部門制とし、毎年交互に募集することとした。令和5年度は「フィジカル」部門の初回となったが、予想以上の応募があり、2部門制が有効に機能していることが実感された。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

秋の恒例事業となった世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は、コロナ禍の中で開催方法を大きく変更して継続してきたが、令和5年度はほぼコロナ以前の状態に戻しての実施となった。天候にも恵まれて多くの来場者を集め、三軒茶屋の街に賑わいが戻った。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

劇場ホームページを大幅に刷新し、広報紙誌、マスコミ媒体等を通じた発信と併せて、劇場の活動を広く区民等に発信した。

また、学芸事業のニューズレター『学芸プログラム通信』やテーマごとに事業を詳細に紹介する冊子『CarroMag(キャロマグ)』も発行した。

公1-7「国際交流のための文化芸術事業」

国際交流事業もコロナ禍の影響を大きく受けてきたが、令和5年度は4本の海外招聘作品を上演し、復活を印象付けた。日・イスラエル外交関係樹立70周年記念事業として実施したインバル・ピント『リビングルーム』や世田谷アートタウン関連企画として実施した日仏共同制作の現代サーカス作品『フィアース5』、アメリカのAte9ダンスカンパニー『Exhibit B』『Calling Glenn』で最先端の舞台芸術を紹介するとともに、“こどもプロジェクト”企画としてスペインからラルンベ・ダンス『エアー～不思議な空の旅～』を招聘し、ファミリー向けにも事業を展開した。

③ 音楽事業部(せたおん)

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

「せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート」は、令和5年度も小ぶりの会場で、セクションごとのアンサンブル公演となった。2セクションずつの2回に分けることで、収容人数を増やし、入手困難だったチケットを求める観客の要望に応えるとともに、団員が他のセクションの公演を聴くことができるようになり、よい勉強になった。

「室内楽シリーズ」は、3企画を実施した。『黒田亜樹と東京ピアノソラランドの仲間たちーバンドネオン、北村聡を迎えて』は、ジャンルを超えて活躍するピアニストが、実力者揃いの音楽仲間とバラエティに富んだプログラムを披露した。『小菅優&ベネディクト・クレックナー』は、国際的に活躍する2人だけに、研ぎ澄まされた演奏で会場を圧した。『成田達輝 ヴァイオリン・リサイタル』は、注目の旬の音楽家が、古今の名曲を圧倒的なテクニックと多彩な表現力で聴かせた。黒田と小菅は、小学生対象のワークショップも開き、子どもたちの心をつかんだ。

日本の伝統音楽を届ける「シリーズ和・華・調」は、新世田谷区民会館の開館延期により、急遽まったく異なった公演を企画。方言詩人・伊奈かつぺいの導きで、唄と踊りと三味線が一体となった、迫力ある津軽民謡の世界を紹介して、満員の観客を沸かせた。

令和4年度開始した事業「ミュージック・ラウンジ」では、『石井彰 月影の浪漫。』、『佐藤竹善 名曲日和』の2企画を実施。いずれも卓越したミュージシャンによる演奏はもとより、舞台美術やロビーでのドリンク・サービスなどで、リラックスした雰囲気づくりに努め、シリーズとしてのファンも生まれつつある。

池辺晋一郎音楽監督企画の『異分野とのコラボレーション』は、“動物と音楽”がテーマ。話題の動物学者・今泉忠明による興味深い話と、動物にまつわる名曲の数々を名手たちの演奏で楽しませた。

支援しているアマチュア団体、世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団が年に一度開く『せたがや名曲コンサート』は、7年ぶりに「第九」を演奏。指揮に巨匠・尾高忠明を迎えた効果もあり、チケットは完売、演奏もきわめて充実したものとなった。

「連携コンサート」では、1企画を主催し、2企画にアーティスト派遣を行った。主催公演は、世田谷文学館の「江口寿史展『ノット・コンプリートッド』」に合わせ、江口寿史、とり・みきという人気漫画家による抒情派フォークデュオ《白い原稿用紙》の11年ぶりのライブ。ファンを狂喜させた。川崎市が開催する「かわさきジャズ2023」に、恒例となっている世田谷区の音楽家の派遣を行ったほか、生活工房主催の「老人性アメイジングとベートーヴェン」のコンサートとトークに、クアルテット・エクセルシオを派遣した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

宮川彬良スペシャル・プロデューサーの「せたがや音楽研究所」は、「10年全14回の総集編！」と銘打ち、これまでの研究成果を振り返った内容。今後に向けての決意表明も行った。また、観客とより近く、双方向でおしゃべりする「サロン」を新たに開催。独特の楽曲分析や次世代を担う若い演奏家の演奏を披露した。

「音楽講座」では、公演に関連して、高学年の小学生向けにミニ・コンサート「小菅優一回きりの音楽授業」を実施したほか、小学生を対象とした「スティールパンの夏休み」「テルミンの夏休み」を行った。また、音楽との新たな出あいを探るトークイベント「マイ・プレイリスト」を開催。その記録に、音楽を楽しむためのエッセイやイラストを掲載したフリーペーパーを発行した。

「せたがやジュニアオーケストラ」は、提携している東京フィルハーモニー交響楽団との関係が深まり、練習の指導はもちろん、リハーサル見学や合同練習が実現した。夏休みには、兵庫県姫路市に「演奏旅行」を行い、姫路市ジュニアオーケストラと合同演奏会を行った。一年の集大成となる「定期演奏会」は新世田谷区民会館の開館延期により、会場、日程、指揮者の変更を強いられたが、気鋭の指揮者・出口大地と共に、かつてない充実した演奏を行い、成長を印象づけた。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

「世田谷アーティスト支援企画『Discovery Setagaya Sounds』」は、せたがやこどもプロジェクト2023関連企画として、シアタートラムで開催。雅楽師の東儀秀樹が登場。伝統的な音楽に加えて、親子の共演で、話題を呼んでいる、雅楽とプログレッシブ・ロックを融合させた“プログレッシブ雅楽”も披露。会場を沸かせた。また、当日のリハーサルの様子を音楽に関心のある25歳以下対象にリハーサルを無料公開した。

「区民チャレンジ・ライブ」は、新世田谷区民会館の開館延期により、開催を見合わせた。

「世田谷区民音楽団体の支援」は、令和5年度も、世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団の3団体の活動を支援した。各団体とも、コロナ禍の制限から脱して、通常に近い形で活動できるようになった。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

「まちかど・まちなかコンサート」は、『まちなかコンサート』のシリーズの人气が高く、それぞれ1日2回の公演を行った。特に「クラリネット・アンサンブル」は、玉川地域で初の開催で、訪れた観客から喜ぶ声を多数もらった。夏休みには、より狭い空間で、子どもたちや家族連れに向けた、スティールパンとテルミンによる『まちかどコンサート』も実施した。

「Setagaya Arts Place」、世田谷区から委託を受け、区内15か所のお祭りやイベントに、音楽家だけでなく、様々なジャンルの大道芸人を派遣した。いずれも歓迎を受け、賞賛を得た。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

「音楽事業部広報」活動は、紙媒体をブラッシュアップするとともに、YouTube や SNS だけでなく、配信サービスも利用して、ウェブ上での発信にさらに力を入れた。

④ 国際事業部

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

新型コロナウイルスが5月8日に5類感染症に移行したことにより、特段の制約をせずとも事業を実施できるようにはなったが、万全を期して令和4年度までと同様に参加者数を絞った形で実施した。

「市民活動支援」では、関係団体がまだ完全に活動を再開していなかったこともあり、国際交流センターにおける各団体の展示を実施するとともに、ホームページでの団体紹介のアップデートを行った。

外国人からの相談に対しては適切な窓口を案内することを基本としているが、より幅広い分野の相談にも対応できるよう知識の蓄積と、関係機関と連携する経験を積み重ねた。

「区民国際交流事業」では、令和4年度に引き続き世田谷区との共催で「国際メッセ」を開催した。令和5年度は国際交流センタースタッフ紹介のほか、昭和女子大学に協力を得て、留学生と区民とが英会話による交流を行う「イングリッシュテーブル」を担当した。また、「国際交流 IN せたがや」は参加者数を制限し、規模を縮小しての開催となった。

「まち歩き」では、(公財)世田谷区産業振興公社の協力を得て、英語に堪能なガイドとともに「英語でまち歩き」を初めて実施し、世田谷八幡宮、豪徳寺、代官屋敷、郷土資料館を訪れ、外国人の方に楽しんでもらった。第2回目は令和4年度に引き続き「やさしい日本語でまち歩き」を行い、九品仏浄真寺と宮本三郎記念美術館を訪問し、日本人と外国人の交流を図った。

「子ども企画」では、夏休みに明正小学校の5、6年生を対象としてタンザニア大使館を訪問し、タンザニアの文化に触れることができた。また、国際交流センタースタッフによる「英語で折り紙デコレーション」を実施し、親子10組が参加した。本来は夏休み事業で企画していたが、指導担当者の体調不良により12月に延期となった。

「多文化理解講座」は予定の7回を実施した。第1回は国際 NGO プラン・インターナショナルの協力を得て、ジェンダー平等について学んだ。第2回はイスラム教寺院「東京ジャーミイ」を訪ねイスラム文化を学んだ。応募者が多く追加で開催した。第3回は難民映画祭パートナーズ上映会で、難民を描いた「マイスマールランド」を上映した。国連 UNHCR 協会の方や映画監督から難民についての話を聞いた。第4回の「やさしい日本語」をテーマとした講座は、継続的に実施することで広めていきたい。第5回は世界自然保護基金ジャパンの協力を得て、生物多様性をテーマに学んだ。第6回は音楽事業部と世田谷美術館の協力を得てインド音楽と踊りを通じてインド文化を学ぶ講座を行い、会場の世田谷美術館講堂は満席となった。第7回は世田谷区の第二次多文化共生プランが令和6年4月からスタートすることから、世田谷区が多文化共生を考える講座をワークショップ形式で実施し、異文化の社会を突然体験したときに自分がどう感じるかを学ぶことができた。「にほんご交流会」はテンプル大学ジャパンキャンパスを会場として4回実施し、テンプル大学の学生、区内に住む外国人、区民がやさしい日本語を使いながら交流した。いずれの回も定員を大幅に上回る応募があった。

そのほか、国際交流センターで勤務する外国人スタッフによる「韓国語でおしゃべり」を月に1～3回実施しており、参加者と一緒に、その発展形として「韓国語でおしゃべり&クッキング」を実施した。スタッフが韓国語で説明しながら韓国料理を作り、韓国の食文化を学んだ。

広報活動については、ホームページやSNS、メールマガジンなどの電子媒体による発信と併せて、Newsletterなどの紙媒体を発行した。

《世田谷美術館》

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和5年度は、コロナ禍も落ち着きはじめ、感染症の対策を講じながら、コロナ禍以前の事業規模へと徐々にシフトしながら、事業を実施した。

企画展ではコロナ禍の落ち着きとともに、オンラインチケット販売の日時指定の枠組みを徐々に緩めて運営を行った。「麻生三郎展」(4月22日～6月18日)は、作家が三軒茶屋に居住していた頃に焦点を当て、家族への眼差しが感じられる作品や、作家が傾倒し、所蔵していたアメリカの画家・ベン・シャーンのパネル作品を展示し、作家のこれまでにない魅力を引き出した。「マルク・シャガール 版にのした光の詩」展(7月1日～8月27日)は、神奈川県立近代美術館所蔵の版画集の作品とその作品の物語などを丁寧に紹介し、作品世界を堪能できる工夫をした。「土方久功と柚木沙弥郎」展(9月9日～11月5日)では、一見接点のない作家を組み合わせることで、通奏低音のように響く創作の原点を提示した。20数年ぶりの本格的な回顧展「倉俣史朗のデザイン」展(11月18日～令和6年1月28日)は、富山県立美術館や京都国立近代美術館との協働企画で実現した。「美術家たちの沿線物語 小田急線篇」(令和6年2月17日～4月7日)は、これまでミュージアム コレクションで取り上げてきた世田谷区内を走る鉄道の沿線の文化的土壌の豊かさを紹介する「美術家たちの沿線物語」の最終章として、ミュージアム コレクション「美術館たちの沿線物語 京王線・井の頭線篇」(12月2日～令和6年4月7日)と併せて開催し、これまでの沿線物語の冊子をまとめて来場者へ無料配布した。

ミュージアム コレクションではほかに、日本の前衛芸術のグループ「実験工房」の一員であった二人の作家を中心に紹介した「山口勝弘と北代省三展」(4月22日～7月23日)、そして近年収蔵した雑誌『世界』(岩波書店)の幅広い分野の一流の作家たちが手掛けたカット原画の整理、調査を行い、『暮らしの手帖』(暮らしの手帖社)のカットと共に紹介した「雑誌にみるカットの世界」(8月5日～11月19日)を開催した。3分館も、前期・後期で展示替えを行い、特に30周年を迎えた向井潤吉アトリエ館、20周年を迎えた清川泰次記念ギャラリーでは、無料観覧日を設けるなど、周年企画を実施した。

作品収集は、これまでの美術館の活動を通じて培われた人脈や、収集されてきた作品が基軸となってその周辺へと広がることで令和5年度も多くの貴重な作品の寄贈があった。「紀要」では、継続的な資料調査や、展覧会をきっかけに更なる調査研究をまとめたもの、美術館における Instagram を中心に SNS の活用についての論考など、学芸員らの日頃の調査研究、レポートが発表された。「年報」では、令和4年度の多岐にわたった美術館の運営、活動を記録としてまとめた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

各展覧会の関連講演会なども毎回手話通訳を付け、コロナ禍前の規模で開催した。

令和5年度の「美術大学」は、人数を40名まで増やし(コロナ禍前は定員60名)、感染症に留意し

ながらコロナ禍前の午前／午後のフルプログラムを実施した。美術大学受講者OBを対象にしたステップアップ講座も実施規模を拡大する一方、オンライン上でも、「自宅で毎日3分クロッキー」を群馬県川場村でのスケッチ旅行と連動して配信した。夏休みの子ども向け企画「ナイトツアー」はコロナ禍以来の対面での実施を行い、閉館後に子どもたちが夜の美術館を謎解きしながら探検した。プロムナード・コンサートはほぼコロナ禍前の定員数に戻して実施した。「100円ワークショップ」も展覧会毎にボランティアと協働して内容に工夫を凝らして実施した。美術鑑賞教室は、ベテランのボランティアだけでなく、新規ボランティアも参画し、充実した美術鑑賞体験の場を子どもたちに提供した。インターンによる出張授業もコロナ禍前の規模に戻り、学生たちが教育現場で活躍した。

パフォーマンス事業では、「蛙犬プロジェクト Frog Dog Project」のワークショップ参加者によるお披露目パフォーマンスとトークを行った。また若手アーティストを対象としたアーティスト・イン・レジデンス(AIR)「世田谷美術館×アートネットワーク・ジャパン」は、前年度に引き続き2回目を実施。令和5年度は演劇家の藤原佳奈が世田谷美術館に滞在し、「世田谷美術館を戯曲だと捉え、それをいま、上演するとしたら？」をテーマに活動し、活動内容をオンラインでも定期的に発信。最終日には上演と滞在報告会を行った。

宮本三郎記念美術館では展示作品と関連したワークショップを、気軽に参加できる内容のものと、本格的な内容のものと2種のプログラムを実施した。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

これまでの「世田谷区民絵画・写真展」は、名称も「世田谷区民展」と改称し、順位付けの賞を設けない、より多くの人々に開かれたものとして、世田谷区民だけでなく、世田谷区で活動する人々など、応募対象を広げて実施した。講評者や出品者同志の交流の場として、展覧会公開日の前日にプレオープンとして、出品者のみを対象とした内覧会及び講評会を行った。区民がギャラリーを利用しやすくするために、「区民ギャラリー利用案内」の冊子の見直しを図り、わかりやすく刷新した。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

ホームページなどで当館の活動に興味を持った新規のボランティアも加わり、100円ワークショップや美術鑑賞教室などに積極的に参画した。年度初めと年度末に2回開催したさくら祭でも多くの友の会会員やボランティアが参加した。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

友の会と連携したニュースレターはデザインを刷新して発行したほか、当館のホームページ、公式エックスおよびフェイスブックなどの活用に加え、インスタグラムを継続的に発信し、展覧会のほか、イベントなどについても積極的にタイムリーな情報発信を行った。また、来館を促す展覧会の見どころなどを紹介する動画コンテンツを制作し配信した。

《世田谷文学館》

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和5年度の企画展は、「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」「江口寿史展 ノットコンプリーテッド」の2本を実施した。いずれも絵本、漫画・イラストで活躍中の作家たちであり、これまでの足跡に加えて今後の活動も予感させる、現在進行形の展覧会だった。石黒亜矢子の枠に収まりきらないダイナミックな作風が次に向かう先、イラストを漫画に取り込む独自の世界を切り開いて

イラストの世界でも大きな業績を残した江口寿史がふたたび漫画を描こうとしているその時を、世田谷文学館で来館者と共有することができた。また、夏休みの時期にあわせて、シーズン展示「どっせい！ねこまたずもう～夏場所～」を開催した。「石黒亜矢子展」と連動し、石黒作品をテーマにメディアアートとコラボレーションして、作中に登場するキャラクターと相撲を楽しむ空間を創った。子どもたちはもちろん、大人も一緒に楽しむことができた。

コレクション展は前期「没後50年 椎名麟三と『あさって会』」後期「衣裳は語る—映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事」を開催した。いずれも当館の特色あるコレクションを活かした展示で、「椎名麟三」では初公開の講演メモを展示、「柳生悦子」ではデザイン画をデジタルコンテンツでご覧いただく工夫とともに、映画を支える衣裳の仕事に賭けた作品を多数紹介した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内でイベントやワークショップを開催した。世代間交流イベントなどより広い層の利用者獲得を目指した。企画展関連企画のイベントも多数実施し、展覧会への深い理解を促した。

当館の基幹事業として実績を積み重ねてきた「どこでも文学館」では、学校や地域と連携しての写真展や文学作品のパネルなどの出張展示を実施し、出張展示キットの全国への貸し出しも行った。（出張展示30回、ワークショップ延べ4回を実施）。「0才からのジャズコンサート」は、0才から大人まで楽しめる本格ジャズコンサートで毎年好評を得ており、令和5年度も感染症対策に留意しながら人数制限を緩和して実施した。乳幼児もリズムを感じて体を動かし、二世帯、三世帯の子ども連れ家族で賑わった。講座「生業さがし 小説家という職業」は将来の仕事を具体的に考え始める高校生を対象に実施し、第3弾は現役の小説家を招いて、小説家になるまでや出版業界の話、小説を書くにあたってのモチベーションやコツについてなど具体的な話を聞いた。区内大学の日本女子体育大学のダンス・プロデュース研究部との連携ワークショップ「ことばとからだ 『シン・モモタロウ』をダンスでおどろろ！」は、昔話の「桃太郎」をアレンジしてオリジナルダンスを創作し、新たなプログラムで元気いっぱいのダンスを完成させた。学校連携ワークショップ「落語をたのしもう～笑いを生み出してみよう」は、区立芦花小学校4年生が、講師の指導で古典芸能である落語について学び、グループワークや個人練習を通して落語の演技や所作を身につけ自分の落語を創作した。日常生活でも実践できる「人を傷つけない笑い」についても考えを深めた。ワークショップ「だれでも探検家」は探検家の高橋大輔氏を講師にリアルイベントで開催し、近隣の蘆花恒春園でワークシートに沿って探検を進めた。探検の基本を学んだあとは文学館に戻りサバイバルテクニックのひとつとして、「災害時にも使える身近なものの活用方法」を実践的に学んだ。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

文学館活動の基盤となる収蔵コレクションの調査・研究の成果として、令和5年度は資料の翻刻を中心とした資料集「世田谷文学館〈調査と探究〉01 石川淳／椎名麟三〔上巻〕」を刊行した。

文学館の事業活動を広く周知するため、ホームページコンテンツの制作、文学館ゆかりのゲストを招いたトーク番組「ほんとわラジオ」の放送、文学館ニュースを年2回発行した。

新たな広報展開として、利用者サービスの充実を目的とした「セタブンパス」（旧称：セタブン特別パスポート事業・仮称）を開始し、リアルとオンライン双方向で利用者をつなげる世田谷文学館のチャレンジが始まった。

2. 事業実績

(1) 世田谷文化生活情報センター 生活工房

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
デザイン・ アートの展 示	【生活工房ギャラリー2023】 続・セタガヤママ展 小さなメディアの40年	地域の暮らしから異文化理解まで、幅広いテーマの展示事業を、生活工房ギャラリーで実施。関連してトークイベントやワークショップも開催。					
		1970年代後半から、世田谷区にあったコミュニティ・スペース「セタガヤ・ママ」を中心に発行されたガリ版印刷のミニコミや、微弱電波を活用したミニFMなど、小さなメディアの活動を紹介。	(1月31日)～ 4月23日	無料	14,576 (総計: 31,732)	2,500 (総計: 8,000)	生活工房ギャラ リー
		【関連イベント】 続・セタガヤママ展 ファミリー寄席 出演:古今亭始、古今亭佑輔	4月23日	500	77	—	ワークショップ ルーム
	牧野伊三夫展 塩と杉	塩田や林業など、自然と人間のあいだをつなぐ営みについて、画家・牧野伊三夫の作品や関係資料を通して考える展覧会。	5月16日～ 7月17日	無料	10,665	15,000	生活工房ギャラ リー
		【関連イベント】 「またいちの塩」出張販売&ギャラリートーク 出演:牧野伊三夫、平川秀一(製塩所「工房とったん」)	6月10日	無料	895	—	生活工房ギャラ リー
		「きこりめし弁当」出張販売&ギャラリートーク 出演:牧野伊三夫、佐々木美徳(「寶屋」店主)、黒木陽介(ヤブクグリ事務局)	6月17日	無料	984	—	生活工房ギャラ リー
	20世紀の映像百科事典をひらく 映像のフィールドワーク 展 vol.2 ひもをうむ、あむ、くむ、むすぶ	ドイツで生まれた映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ(EC)」が記録した生命の営みを、未来に向けてひも解く展覧会の第二弾。映像を通して、夏休み子どもたちの、世界への好奇心や探求心を引き出した。	7月25日～ 10月22日	無料	25,655	15,000	生活工房ギャラ リー
		【関連イベント】 トークイベント「みる、やってみる、問い続ける ー日本の今この場所から」 ゲスト:吉田勝信(吉勝制作所)、後藤一磨(「海の見える命の森」プロジェクト)	10月7日	500	19	—	セミナールーム
		『ブーンミの島』上映会&監督トーク ー沖縄県宮古諸島の芋麻文化を映像で記録すること ゲスト:春日聡(映像人類学者・国立歴史民俗博物館客員准教授)	10月15日	500	51	—	セミナールーム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
デザイン・ アートの展 示	あみきをほどく 家庭用編み機の展覧会	かつてミシンと並ぶ定番の家庭用品だった「編み機」。萩原まさが発明してから100年目を迎える本年、プロダクトとしての家庭用編み機や、現在も編み機を用いているクリエイターの作品を紹介。	10月31日～ 2024年1月21日	無料	15,342	15,000	生活工房ギャラ リー
		【関連イベント】 ウィークエンド・ニッティング(6回)	11月17日～19日 2024年1月19日～ 21日	無料	3,007	—	ワークショップ ルーム
		会場ツアー「展示をまわる、編み機をさわる」(16回) 講師:田沼英治(Knittingbird)	11月17日～19日 2024年1月19日～ 21日	無料	119	—	ワークショップ ルーム
		ニットスペース「ほったらかし手編み倶楽部」(6回)	11月17日～19日 2024年1月19日～ 21日	無料	72	—	ワークショップ ルーム
		トーク「あみきをほどく 編み機の来し方行く末」 聞き手:横山起也(編みキノコ作家/NPO法人LIFE KNIT) ゲスト:北川ケイ(彩レース資料室/近代日本西洋技芸史研究家)、田沼英治(Knittingbird)	11月19日	500	52	—	ワークショップ ルーム
	生活工房常設展示 生活工房アレコレ2023	生活工房で実施した展覧会やワークショップを記録した写真、映像、資料などを公開し、閲覧できる可動的なコーナーで紹介。2023年度も引き続き穴アーカイブで収集・デジタル化した8ミリフィルムを月替わりで計12巻紹介。来場者からも感想やエピソードを募り、公開した。	通年	無料	39,044	50,000	生活工房3Fロ ビー
	共催展示 世田谷のまちと暮らしのチカ ラ まちづくりの歩み50年	「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」と共催した展覧会。1975年頃から現在まで連綿と続く、区内各地行われた「まちづくり」の歴史を豊富な資料や再現模型とともに迎える展示。	2024年 1月31日～ (4月21日)	無料	11,480	10,000	生活工房ギャラ リー、ワーク ショップルーム
		【関連イベント】 ギャラリートーク(全12回:2023年度9回) 講師:饗庭伸、市川徹、男鹿芳則、小山弘美、齋藤啓子、橘たか、千葉晋也(世田谷まちづくり展実行委員会メンバー)	2024年2月3日、 12日、17日、25日、 3月3日、9日、 16日、23日、30日 (4月7、13、21日)	無料	71	—	生活工房ギャラ リー、ワーク ショップルーム AB
		ちかくのとーく vol.6「世田谷区の、住民参加とまちづくり」 進行:市川徹(まちづくりコーディネーター)、記録:千葉晋也(まちづくりデザイナー) ゲスト:饗庭伸(東京都立大学教授)、齋藤啓子(武蔵野美術大学教授)	2024年2月3日	会場200 オンライン無料	会場40 オンライン 31	—	セミナールーム オンライン
		まちづくりワークショップの未来 講師:齋藤啓子(武蔵野美術大学教授)、饗庭伸(東京都立大学教授)、安藤哲也(柏アーバンデザインセンター)、角屋ゆず(世田谷トラストまちづくり)、角尾宣信(和光大学講師)	2024年3月6日	無料	21	—	セミナールーム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
デザイン・ アートの展 示	共催展示 世田谷のまちと暮らしのチカラ まちづくりの歩み50年	未来の世田谷シンポジウム 登壇:株式会社イマックス、東急電鉄株式会社、株式会社ヒトカラメディ ア、 株式会社はこぶん、京王電鉄株式会社、さくら花見堂の会、まもりやまテラスの 会、株式会社世田谷サービス公社、一般社団法人シモキタ園藝部、小田急電鉄 株式会社 進行:饗庭伸(東京都立大学教授)、橘たか(まちづくりプランナー)	2024年3月17日	無料	会場52 オンライン 213	—	セミナールーム オンライン
		住民参加でつくってきた太子堂のまちを歩こう 案内:小山弘美(関東学院大学准教授)、梅津政之輔	2024年3月23日	無料	23	—	セミナールーム
		ボードゲームとまちづくりの関係 登壇者:饗庭伸(東京都立大学教授)、安藤哲也(柏アーバンデザインセンター (UDC2)副センター長)、千葉晋也(株式会社石塚計画デザイン事務所共同代 表) 聞き手:橘たか(まちづくりプランナー)	2024年3月23日	無料	21	—	セミナールーム
		ユニバーサルデザインとアーバンデザインの未来を考える 登壇:男鹿芳則(世田谷まちづくり展実行委員)、齋藤啓子(武蔵野美術大学 教授 元世田谷区ユニバーサルデザイン環境審議会副会長)、高橋儀平(東洋 大学名誉教授 東京都福祉のまちづくり推進協議会会長)、高谷時彦((株)設 計計画高谷時彦事務所主宰 都市環境デザイン会議会員 元世田谷区風景づ くり委員) ほか	2024年3月24日	無料	56	—	セミナールーム
	共催展示 昭和女子大学×生活工房 サイト・リノベーションの現場 公開 杉浦久子研究室	三軒茶屋にキャンパスのある、昭和女子大学との共催事業。1992年秋～現 在までに環境デザイン学科・杉浦久子研究室で行ってきた約50プロジェクトの 紹介展示。	2024年2月13日～ 3月17日	無料	4,430	—	ワークショップ ルームA
ワーク ショップ・ 講座	【セミナー・ワークショップシ リーズ2023】 こども・おや・じぶん 親子関係を生きる君へ	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属する《共生のための国際 哲学研究センター(UTCP)》とともに、「インクルーシヴ」をテーマにゲストを招 きセミナーを開催した。 親と子、双方の関係性について鋭い視点で切り込む数々の著作がベストセ ラーになるなど、教育分野で注目を集める鳥羽和久氏を迎えて開催した。 「講演会&対話」を実施。 ①対談+ミニ対話 ②対談+ミニ対話+グループ対話 ゲスト:鳥羽和久(教育者、作家) 聞き手:中里晋三(東京大学UTCP特任研究員)、山田理絵(東京大学 UTCP上廣共生哲学講座特任助教)	①②11月3日	①2,000 ②3,000	①22 ②33	50	ワークショップ ルームAB

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	老人性アメイジング！ 寿ぐ老いとベートーヴェン	天才作曲家ベートーヴェンが老年期に迎えた音楽の境地とはどんなものだったのか、作品の魅力を解説しながら「老い」がもたらす豊かな人間像を探った。音楽事業部の協力を得て晩年作品の弦楽四重奏の演奏会も開催した。 進行・解説：山内泰(NPO法人ドネルモ代表理事、[一社]大牟田未来共創センター理事) 寿ぐ老い ゲスト：伊藤亜紗(美学者)、村瀬孝生(「宅老所よりあい」ほか統括所長)	2024年2月18日	3,000	155	50	東京大学 駒場I キャンパス 21 KOMCEE West
		老人性アメイジングとベートーヴェン ゲスト：村瀬孝生、クアルテット・エクセルシオ(西野ゆか/Vn.1、北見春菜/Vn.2、吉田有紀子/Va、大友肇/Vc・お話)	2024年2月25日	3,000	132		世田谷美術館 講堂
	アーカイブ配信	これまでに開催してきたセミナー・ワークショップの記録をYouTube等で公開するラーニングプログラム。	通年	無料	PV数 39,941回	PV数 40,000回	オンライン
	【穴アーカイブ2023】 世田谷クロニクル1936-83	世田谷区民から募った8ミリフィルムのアーカイブ事業。これまでにデジタル化した映像をオンラインで公開している。上映会や常設展示でも紹介し、映像から想起した個々人の記憶を収集、公開。 8ミリフィルムを公開しているウェブサイト「世田谷クロニクル1936-84」。ウェブサイトの運営に加えて、美術館や福祉施設等への貸出やアウトリーチを行った。	通年	無料	PV数 13,376回	PV数 15,000回	オンラインほか
	せたがやアカカブの会	映像を介して思い出した個人的なエピソード、気付いたことや気になったことなど、スクリーンを囲みながら言葉にしていける定期上映会。(4回、うち1回は共催事業として実施)	①9月9日 ②11月4日 ③12月10日 ④2024年3月3日	無料	①11 ②14 ③10 ④15	60	ワークショップ ルームほか
	エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会	視覚障害者と一緒に映像を鑑賞するプログラム。劇映画やドラマとは異なり、視覚障害者にとって筋のないホームムービーを見る経験は乏しい。「みる」ことを考えるとともに、成果としてオリジナル「音声ガイド」も公開した。(2回)	①9月23日 ②2024年1月13日	無料	①5 ②4	20	オンライン

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	【共催事業】 財団内部、区内大学、市民活 動団体等との共催	施設の利活用を促進するとともに、利用者の裾野を広げるため、地域の大学 やNPO等と共催し、生活やデザイン、社会課題等と結びついた様々な催しを 行った。 めとてラボ×生活工房 井岡さんちのホームビデオ鑑賞会	9月2日	無料	29	240	セミナールームほ か ワークショップ ルームB
		BONUS TRACK×生活工房 ①せたがやアカカブの会 下北沢出張編〈再掲〉 ②ケアするホームムービー	①11月4日 ②11月5日	無料	①14 ②16		BONUS TRACK(下北 沢)
子どもワ ークショッ プ	【子どもワークショップ 2023】 20世紀の映像百科事典をひ らく 映像のフィールドワーク 展 vol.2 関連ワークショップ	幼児から中高生、さらに若年層を対象に、デザインやコミュニケーションの体 験などを通して、創造性を育む機会を創出する事業を実施した。 映像のフィールドワーク展の関連イベントとして、夏休みの小中学生・親子を 対象とした造形ワークショップを開催。映像を手本にして、身近に生えている草 や廃材などを材料に、仮面や舟などを創造した。 「映像をみる、やってみる」①～⑥ 講師:EC活用プロジェクトメンバー ゲスト:③ながはたじゅんべい(民族写真家) ④本間一恵(かご編み作家) ⑤西村優子(紙の造形作家)	①8月4日 ②8月5日 ③8月26日 ④9月16日 ⑤9月18日 ⑥10月1日	1,000～500	①10 ②16 ③17 ④22 ⑤24 ⑥19	60	ワークショップ ルームほか
	オンライン開催だよ！うち に集合 第22回おはなしいっぱい	幼児から大人まで楽しめる朗読、素話、パネルシアターなど、区内30団体を ネットワークする「世田谷おはなしネットワーク」との共催によるお話会。活動団 体のネットワーク構築と活性化を支援した。	8月23日～25日	無料	871	1,000	オンライン
	若年層向けセミナー どう？就活 自分と仕事の出 会い方 vol.3	若年層を対象に、働くとはどういうことか、何のために働くのか？新時代の多 様な「働き方や生き方」について、働き方研究家やゲストとともに学ぶセミナーの 第3弾を実施した。 ファシリテーター:西村佳哲(リビングワールド代表、プランニング・ディレク ター) ①働くってなに？ ゲスト:川内有緒(ノンフィクション作家)、鳥羽和久(禅寺 子屋ネット福岡 代表取締役) ②会社ってなに？ ゲスト:北川史織(雑誌『暮らしの手帖』編集長)、小川立夫 (パナソニック ホールディングス執行役員、グループ最高技術責任者)	①12月2日 ②12月3日	各日 2,000(一般) 500(10代)	①112 ②78	70	ワークショップ ルーム
人材育成 プログラム	インターン生の受け入れ	近隣大学からインターン生を受け入れ、コミュニティや交流について事業の現 場を体験する場を提供した。(2回)	①8月3日～26日 期間内の5日 ②8月11日～26日 期間内の7日	—	2	2	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
生活工房 広報	生活工房ウェブサイトの運営・SNS配信	生活工場の施設案内、事業予定、募集情報、関連ブログなどを掲載し、情報を発信する。SNS(X、Facebook Page、Instagram)と併せ、効果的に広報を展開した。	通年	—	—	—	—
	情報紙の編集・発行	生活工場の事業を紹介する情報紙を定期発行。区内施設や全国の文化施設等で配架して施設全体の周知を図るとともに、デジタル化された情報では受け取ることが難しい層にも情報提供した。(4回)	4月、7月、10月、 2024年1月発行	—	—	—	—
	生活工房「アニュアルレポート2023」の編集・発行	年間のプログラムを記録した報告書。生活工場の活動を視覚的にわかりやすく紹介する冊子を発行する。施設の総合的な情報を開示することで事業への関心を高め、既存利用者の満足度向上や新規利用者の獲得を図った。	2024年5月 発行予定	—	1,500部	1,500部	—
国際交流・異文化理解の推進	20世紀の映像百科事典をひらく 映像のフィールドワーク展 vol.2 ひもをうむ、あむ、くむ、むすぶ[再掲]	ドイツで生まれた映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」が記録した生命の営みを、未来に向けてひも解く展覧会の第二弾。映像を通して、夏休みの子どもたちの世界への好奇心や探求心を引き出した。	7月25日～ 10月22日	無料	25,655	15,000	生活工房ギャラリーほか
市民活動支援	世田谷アートフリマ presents 夏休みワークショップ	世田谷区内を中心に制作活動をしているアーティストを講師に招き、夏休み期間中、子どもたちに向けたものづくりワークショップを行った。 ①自分だけのぬいぐるみをつくろう！ 講師:100mermaids workshop (ハンドレッドマーメイズワークショップ/クリエイター) ②自分のイラストでTシャツをつくろう！ 講師:Nuusle(ヌースル/ものづくりユニット)	①8月12日 ②8月13日	各回1,000	①17 ②18	30	ワークショップルーム
	市民活動支援コーナーの運営	世田谷区内で活動する市民活動団体の支援を目的に、登録制で利用できる打合せスペース、プリントアウトスペースなどの場を提供。運営は市民活動団体に委託。	通年	—	8,478	7,000	市民活動支援コーナー
	ちかくのとーく	市民活動の活性化を図る目的で、世田谷区内のソーシャルグッドに貢献する活動に取り組む団体、個人を招いて開催するトークシリーズ。会場とオンラインで開催した。 進行:市川徹(まちづくりコーディネーター) 記録:千葉晋也(まちづくりデザイナー) ① vol.04「羽根木で続く、冒険遊び場のこと」ゲスト:天野秀昭(NPO法人プレーパークせたがや理事)、荒木直子(羽根木プレーパーク世話人代表) ② vol.05「千歳烏山の、まちづくりに集うひと」ゲスト:福永順彦(場所づくり研究所プレイス/なりたて農民)、川崎修(認定NPO法人CFFジャパン/一般社団法人ななつのこ理事・事務局長) ③ vol.06「世田谷区の、住民参加とまちづくり」〈再掲〉	①8月27日 ②12月3日 ③2024年2月3日	会場200 オンライン無料	① 会場14 オンライン19 ② 会場11 オンライン9 ③ 会場40 オンライン31	各回 会場10 オンライン15	セミナールーム オンライン

(2) 世田谷文化生活情報センター 世田谷パブリックシアター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
国内演劇 創作事業	白井晃演出作品 音楽劇『ある馬の物語』	【原作】レフ・トルストイ 【脚本・音楽】M・ロゾフスキー 【上演台本・演出】白井晃 ロシアの文豪トルストイによって19世紀後半に書かれた小説を戯曲化し、人間という愚かな生き物と聡明な馬とを対比させることで、「生きることとは何か？」という、普遍的なテーマを問いかける作品。国際的にも高く評価されてきたが、ロシアのウクライナ侵攻により、現在は日本とロシアの文化交流も厳しい状況の中で、演劇人同士の信頼関係の下に、上演権を確保し、公演に漕ぎ着けることができた。音楽劇としての色合いも濃い構成となっているが、演奏、身体表現、歌、セリフと舞台芸術のあらゆる可能性を突き詰め表現したクオリティの高い作品となり、白井芸術監督の演出ならではの成果を生んだ。(18回)	6月21日～7月9日	8,800～ 5,500	7,768	8,887	パブリックシアター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(2回)	7月22日、23日	9,500～ 5,500	1,286	—	阪急中ホール
	前川知大演出作品 『無駄な抵抗』	【作・演出】前川知大 2019年に上演した『終わりのない』の延長線上にある作品で、ホメロスの『オデュッセイア』を原典とする、運命と自由意志をテーマにした現代劇を創作し上演した。 世田谷パブリックシアターが力を入れてきた、現代演劇人による書下ろし新作の舞台芸術の発信が、読売演劇大賞を複数部門で受賞するなど、芸術的にも高い評価を得ることができ、今後の日本舞台芸術界のさらなる活性化と舞台芸術の水準向上に寄与することができた。(15回) ・第31回読売演劇大賞 最優秀女優賞:池谷のぶえ/優秀演出家賞:前川知大/優秀スタッフ賞:土岐研一(2024年2月受賞)	11月11日～26日	8,500～ 4,500	7,804	7,825	パブリックシアター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(2回)	12月9日、10日	8,500	1,454	—	阪急中ホール
	横山拓也作・瀬戸山美咲演出作品 『う蝕』	【作】横山拓也 【演出】瀬戸山美咲 数々の受賞歴を持つ横山拓也が新作戯曲を書き下ろし、瀬戸山美咲が演出し上演した。 当初天変地異に見舞われ土砂に埋もれた島を舞台に設定していたが、2024年能登半島地震の発生をうけて作品の根源をそのままに戯曲を見直すこととした。被災地への鎮魂の意を込めて、作品を上演することの社会的意義に立ち返りキャストスタッフ一丸となりディスカッションを重ね誠実に作品と向き合い創作を進めた。結果として、作品の強度を高めるとともに舞台芸術における新たな可能性を示唆する機会となった。(28回)	2024年2月10日～ 3月3日	7,500～ 6,500	6,467	4,125	シアタートラム
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(3回)	2024年3月9日、 10日	8,500	1,305	—	阪急中ホール
		【愛知公演】Niterra日本特殊陶業市民会館(2回)	2024年3月16日	8,500	1,481	—	ビレッジホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
国内演劇 創作事業	森新太郎演出作品 『メディア/イアソン』	【脚本】フジノサツコ 【演出】森新太郎 さまざまな「メディア伝承」をベースにしたフジノサツコの脚本と日本の演劇界をリードする森新太郎の演出により上演。 演出家が厚い信頼を寄せる美術、照明、音楽、衣裳などのスタッフ陣が、綿密な打合せを経て個々の能力を充分に発揮させた舞台は芸術作品としても評され、一方わずか5名の精鋭キャスト陣は長い稽古期間を経てよりパワーアップした演技力で、壮大かつ繊細な新しいギリシャ悲劇を立ち上げた。多くの観客を動員し、高い評価と満足度を得られた作品となった。(22回)	2024年 3月12日～31日	9,000～ 2,750	10,320	9,342	パブリックシアター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(4回)	2024年 4月4日～6日	9,500	2,326	—	阪急中ホール
	作品創造研究	次年度以降の上演演目としての可能性を探るため、調査研究の一環として、海外戯曲の翻訳(粗訳)、新企画の為の演目調査を先行して行い、世田谷パブリックシアター企画制作としての作品に適しているか否かを外部の有識者や実演家を交えて検討する。 2023年度は脚本家・演出家の山田由梨によるワークショップを開催し、2024年度以降の新企画のための準備を行った。(13日間)	11月8日～26日	—	—	—	稽古場
子どもプロ ジェクト	せたがやこどもプロジェクト 2023ステージ編 『せたがや夏いちらくご』	古典落語を扱いつつも現代の風刺を取り入れ大胆アレンジする作風と、とっつきやすい語り口で幅広い年齢層から多くの支持を集める春風亭一之輔がプロデュース。昼は子ども・親子に向けた入門編、夜は落語ファンに向けた公演として、昼夜で異なる出演者・内容によるオリジナリティーある公演を実施。寄席芸能をより身近に感じることができ、テレビ等以外ではなかなか接する機会のない、伝統的・本格的な大衆演芸の面白さ、話芸のすばらしさを幅広い年齢層の観客に楽しんでいただく公演となった。(2回)	7月17日	4,500～ 1,000	1,206	808	パブリックシアター
	せたがやこどもプロジェクト 2023ステージ編 アミューズ×世田谷パブリックシアター ミュージカル『カラフル』	【原作】森絵都 【演出】小林香 「せたがやこどもプロジェクト」の一環として、青少年に向けた新作ミュージカルを上演した。自社で多くの演出家・アーティストを抱え、数多くのオリジナルミュージカルの制作実績を誇る株式会社アミューズとの共同制作により、新たなジャンルでの舞台芸術作品の創造・発信を行うことができた。(15回)	7月22日～8月6日	9,500～ 7,500	5,631	6,038	パブリックシアター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(2回)	8月12日、13日	5,000～ 2,500	965	—	阪急中ホール
		【茨城公演】水戸芸術館ACM劇場(2回)	8月19日、20日	8,500～ 4,500	576	—	ACM劇場
		【愛知公演】春日井市民会館(2回)	8月26日、27日	5,500	1,157	—	春日井市民会館
	せたがやこどもプロジェクト 2023ステージ編 『メルセデス・アイス MERCEDES ICE』	【作】フィリップ・リドリー 【演出】白井晃 「せたがやこどもプロジェクト」の一環として、イギリスの劇作家フィリップ・リドリーによる児童書『原題:Mercedes Ice』をもとにした青少年向けの演劇作品を『マーキュリー・ファー』『レディエント・パーミン』『ガラスの葉』等でリドリーの戯曲を数多く手掛けてきた白井晃芸術監督が演出し上演した。(10回)	8月11日～20日	8,000～無料	2,862	4,000	パブリックシアター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ダンス公演	ダンス提携公演／育成	気鋭の若手カンパニーからベテランまで、選りすぐりのダンスカンパニーと提携し、現代演劇と舞踊を専門として上演する劇場のレパートリーの多様性を創出した。創作活動を支援しながら、演劇的な要素や、音楽、美術など、異なるジャンルのアートとの出会いを提案し、世田谷でしか生まれ得ない新しい舞台芸術の創造を目指した。 ・伊藤キム ・バオバブ ・山海塾 ・北村明子 ・Co.山田うん ・Co.RuriMito ・デラシネラ ・大駱駝艦	6月23日～3月24日	6,000～1,000	5,797	5,700	パブリックシアター/シアタートラム
提携公演	演劇提携公演	気鋭の若手から長年の実績を誇るカンパニーまで、優れた演劇作品の上演実績がある劇団・ユニット・制作会社・団体等と提携し制作的な補助、広報宣伝協力等を行った。 ・シス・カンパニー ・イキウメ ・劇団チョコレートケーキ ・国際演劇協会日本センター ・日本舞台音響家協会 ・ロ字ック ・iaku	4月1日～12月3日	11,000～1,100	38,847	25,000	パブリックシアター/シアタートラム
コミュニティプログラム	劇場での演劇ワークショップ	地域の人々が気軽に参加できるプログラムから、深く取り組むことのできるプログラムまで、多様な内容のワークショップを実施した。 (1)「デイ・イン・ザ・シアター」 1～2日単位で気軽に演劇や劇場を体験できるワークショップを行った。(12コース23回)	4月5日～ 2024年3月8日	500	延292	540	稽古場ほか
		(2)「20代・30代のための演劇ワークショップ」 テーマ『子どもをもつこと、もたないこと』を設定した上で複数日にわたって行った演劇ワークショップ。(1コース5回)	2024年 1月7日～25日	2,500	延80		
	子どものためのワークショップ	子どもを対象に、演劇ワークショップを実施した。 (1)「夏休みエンゲキワークショップ」 学校の長期休暇に合わせたワークショップ。(13コース39回)	7月24日～ 8月23日	1,500	延606	768	稽古場ほか
		(2)「ごちゃまぜワークショップ」 学齢で区切らないワークショップとし、子どもたちが年齢の違うグループと作業する機会を提供した。(12コース12回)	4月23日～ 2024年3月26日	500	延169		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
コミュニティプログラム	地域の物語	世田谷パブリックシアターが開場した1997年から27年間、自分や周りの人たちの思いや生活、人生、また現在進行形の社会問題等を出発点に、地域コミュニティ全体で共有しうる『地域の物語』を紡ぐことを目指して、演劇づくりを行ってきた『地域の物語』。2023年度は、一般参加者が中心だった過年度の発表会とは、やや趣きを変えて実施した。 2023年度は「劇場と地域コミュニティの冒険」と題し、世田谷パブリックシアターが、世田谷区内の社会福祉法人や障害当事者の方々などと連携して作りあげてきた作品『ともにやの部屋』『支えることについての小さな劇』『うけいれる身体・うけいられない身体』に加え、一般の方が参加の『ラップしようぜ！～コロナの日々をふりかえる』を上演した。(5プログラム5回)	2024年2月13日～ 3月17日	公演 無料 WS 2,500	発表会 延633 参加者 延84	708	稽古場/シアター トラムほか
		【愛知公演】『うけいれる身体・うけいられない身体』(公演1回、ワークショップ1回)	10月7日～8日	1,000～500	94	—	アートスペース
学校とそのほか区内施設との連携プログラム	学校のためのワークショップ	世田谷区内の小中学校の児童・生徒・教員を対象に、以下の3つの事業を実施した。 (1)『かなりご機嫌なワークショップ巡回団』:進行役やアーティストが学校へ出向き、教科の学びに活かす演劇ワークショップを実践した。(200回)	5月16日～ 2024年3月5日	無料	延6,175	8,137	世田谷区内の各 小中学校/稽古場
		(2)『ともにやの部屋』:障害当事者のライフストーリーからなる小作品を巡回した。(20回)	9月15日～ 2024年1月30日		678		
		(3)「先生のためのワークショップ」:小中学校の先生が授業で活用するためのヒントとなるワークショップや事業報告会を年間を通じて劇場内外で実施した。(3回)	6月14日～10月4日		122		
	地域連携プログラム	非営利の区内施設/団体(児童館、障害者支援施設、病院、集合住宅等)に進行役を派遣して、演劇的手法を用いたワークショップや参加型作品を、当該施設/団体と協働して施設利用者及び近隣住民に向けて実施した。 2023年度は、過年度に引き続き下馬地区に焦点をあて、地域の福祉法人他と連携してアートのお祭り「極楽フェス'23」を開催した。また、玉川地域社会福祉協議会との共催企画から生まれた学生劇団「劇団新風」の上演などを実施した。(11企画22回)	5月18日～9月25日	300～無料	528	260	世田谷区内の施設
	中学生演劇活動支援	中学生を対象に、年間を通じた演劇活動を提供した。 (1)中学校支援 世田谷区立中学校教育研究会演劇教育研究部と連携し、区立中学校演劇部を中心とした中学生演劇部への活動を演劇区大会支援を中心に行った。(全8校)	10月27日～29日	—	延120	560	世田谷区内各小 中学校/区民会館ほか
		(2)世田谷パブリックシアター中学生演劇部 [区受託] 演劇部がない学校の子どもに向け、劇場で演劇ワークショップを実施。2学期には、作品をつくり発表することを前提としたワークショップを実施。作品は世田谷区立中学校演劇発表会等で発表をした。(4企画22回)	6月24日～ 2024年3月27日	—	延287	—	世田谷区内各小 中学校/区民会館/稽古場

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
学校とそのほか区内施設との連携プログラム	小学校古典芸能鑑賞教室 [区受託]	世田谷区立の小学校(全校)6年生を対象に、各学校体育館にて狂言ワークショップを実施。能狂言の発想や技能を体感し、日本固有の伝統芸能について関心を高める機会を提供した。(28回)	5月31日～ 2024年2月9日	—	延6,500	6,000	世田谷区内 小学校体育館
	移動劇場「@ホーム公演」	劇場へなかなか足を運ぶことのできない、お年寄りや障害者が生活する場所へ、劇場から演劇を運んで上演する企画で、2023年度は新型コロナウイルスの影響により2020年に上演直前に中止となった作品をもとに、新たに書き直して新作上演した。 施設利用者の方が3年ぶりに見る劇は、どのような形態が受け入れやすいか、楽しめるか、脚本・演出・出演の全面を改めて見直しながら創作し、施設の職員さんが登場する場面や、見ている人たちが物語に参加できる仕掛けを用意して、その場にいる人たち全員が劇を介して一体感を持てるように工夫した。(13回)	6月10日～23日	無料	520	1,000	区内特別養護老人ホーム、デイサービス、障害者施設
研究育成プログラム	観客育成プログラム	『世田谷パブリックシアターダンス食堂』 地域市民及び観客を対象に、劇場で上演するダンスプログラムと連携し、ダンサーの理念やメソッドに触れるワークショップ及びトーク企画。(ワークショップ2回、トーク2回)	7月25日～ 2024年3月26日	500	42	170	セミナールームほか
	専門家育成プログラム	大学生や進行役、研究者を対象に、演劇ワークショップの社会における活用方法について調査研究する「SPTラボラトリー～演劇ワークショップラボ」を設定し、ラボメンバーを募集した。レクチャーやワークショップを組み合わせた実践形式のプログラムを行い、一部のレクチャーやワークショップは一般にも公開し実施。(13コース41回)	4月22日～ 2024年2月6日	2,500～500	471	430	パブリックシアター/シアタートラム/稽古場/セミナールームほか
舞台技術者人材育成プログラム	Technical Theatre Training Program 舞台技術講座	次世代を担う舞台技術者やプランナー、デザイナーを対象に、「舞台音響入門講座」「舞台照明入門講座」「舞台技術安全講座」安全セミナーとして「舞台機構の制御とモーターの未来像」を実施した。					
		(1)舞台音響入門講座	8月24日	3,000～ 1,500	40	250	パブリックシアター/シアタートラム
		(2)舞台照明入門講座	8月25日		67		
		(3)舞台技術安全講座	8月26日～27日		43		
		(4)安全セミナー『舞台機構の制御とモーターの未来像』	2024年2月23日	1,000～500	89		
	舞台技術支援	劇場使用者等に対して、設備等の使用講習会を実施するとともに、プラン・オペレートや機材等の支援を行った。	通年	—	—	—	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
区民の表現の場の提供	フリーステージ	世田谷区民を中心とした、音楽やダンスなどの文化活動を行なっている団体から出演団体を公募。世田谷パブリックシアター(世田谷クラシックバレエ連盟・ダンス部門)とシアタートラム(音楽部門)にて、それぞれ日頃の成果を発表した。各団体と劇場スタッフが協力し、事前の打ち合わせやリハーサルなどの作業を重ねて実施することができた。また、新型コロナウイルスの影響により2020年以降新規団体の申込受付を休止していたが、2023年度より新規団体受付を再開し音楽団体1団体、ダンス部門6団体の新規団体を迎え開催した。(世田谷クラシックバレエ連盟1回、音楽部門1回、ダンス部門3回)	4月29日～5月7日	—	延2,400	3,000	パブリックシアター/シアタートラム
	シアタートラム・ネクストジェネレーション vol.15ーフィジカルー room.Onaya Rion 『Pupa』	2008年度より実施されてきた世田谷パブリックシアターによる、若い才能の発掘と育成を目的とした事業である「シアタートラム・ネクストジェネレーション」を「ドラマ(演劇)」「フィジカル(ダンス、サーカス等身体表現)」とジャンルを分け、隔年で実施。2023年度は「フィジカル」部門として女屋理音を選出、ダンスと音楽の生演奏が融合し、初のホール公演ながらパワフルな作品となった。また、ポストトークを開催しアーティストの内面を知る機会を作ることができた。	12月7日～10日	3,500～ 1,750	480	450	シアタートラム
地域活性のための文化芸術事業	世田谷アートタウン2023 『三茶de大道芸』	三軒茶屋の街を舞台に、商店街の各所で大道芸のパフォーマンスなどを行った。地域の活性化と文化向上を図るため、地元商店街や町会等との実行委員会方式により実施する。新型コロナウイルス感染症の影響により2020年以降規模を縮小していたが、2023年度より通常開催に戻し2日間開催した。(文生センター全体事業)	10月21日、22日	—	177,000	200,000	三軒茶屋駅周辺 商店街ほか
劇場広報	劇場営業広報宣伝	営業・広報宣伝活動を通じて世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知した。地域の劇場/創造発信型劇場としての当劇場の存在意義を高めるブランディング活動として各種メディアへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信を行い、主催事業への集客を図り財団の収益性の向上に資する営業活動を行った。	通年	—	—	—	—
	学芸共通広報宣伝	学芸部門で行われているワークショップ・レクチャー等の普及を進めるための広報物の作成や宣伝等の活動を、紙媒体ならびにホームページ(オンライン)を中心に展開した。	通年	無料	—	—	—
	劇場雑誌の発行	各事業の成果を記載したアニュアルレポートを劇場雑誌として編集・発行した。2023年度は2022年度の事業を報告するための冊子を作成した。その他、必要に応じて事業ごとの活動を分析、記録、周知する劇場雑誌を編集・発行した。	通年	無料	400部	1000部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
海外招聘・ 国際共同 制作	日・イスラエル外交関係樹立 70周年 インバル・ピント『リビング ルーム』	日本＝イスラエル外交関係樹立70周年を記念し、イスラエル出身のインバル・ピント振付の新作ダンス公演を招聘。世田谷パブリックシアターでも度々新作を上演し、また演出家として日本でも数々のミュージカルなどの演出を手がけるインバル・ピントの作品は、子どもから大人まで幅広い層の胸を打つ内容で、ダンスのみならず、映像や舞台美術、衣裳デザインまでも手がけ、ミュージカルの振付・演出などユニークでチャーミングな舞台で日本の観客を魅了した。 公演の他、ワークショップなどの関連事業を実施し、世界で活躍するアーティストの多彩な側面を紹介することができた。(公演3回、ワークショップ2回)	5月19日～21日	4,500～ 1,800	公演 1522 WS 延42	1,350	パブリックシア ター／稽古場
		【京都公演】京都芸術劇場(京都芸術大学内)(2回)	5月26日、27日	3,500	345	—	春秋座
	せたがやこどもプロジェクト 2023 ステージ編 ラルンベ・ダンス『エアー～不 思議な空の旅～』	「せたがやこどもプロジェクト」のプログラムとして、マドリッド(スペイン)を拠点に活動を続け、50年の歴史を持つダンスカンパニー、ラルンベ・ダンスを招聘し大気汚染をテーマとした、カンパニーの環境問題三部作の最終章として、ダンスを通じて社会へ自然の大切さをうたえる作品『エアー～不思議な空の旅～』を上演した。ダンスと3D映像を組み合わせた愉快的ステージで子どもたちを魅了した。 また、子ども向けのダンスワークショップを開催し、身体を動かし表現することの面白さを体験することができた。(公演4回、ワークショップ3回)	7月28日～30日	3,500～ 1,000	公演 553 WS 延52	540	シアタートラム/ 稽古場
		【愛知公演】春日井市東部市民センター	7月23日	3,800～500	173	—	春日井市東部市 民センター
		【兵庫公演】神戸文化ホール	8月5日	2,500～500	260	—	中ホール
	世田谷アートタウン2023関 連企画 フランス×日本 現代サーカ ス交流プロジェクト 『フィアース5』	2021年秋、フランスの現代サーカス界を牽引するラファエル・ボワテルを演出に迎え、日本のサーカスアーティストとの国際共同制作により誕生した『フィアース5』。カンパニー・ルーブリエの代表作として世界中で上演されている『5ES HURLANTS』(2015年初演)をベースに、ダンス、エアリアル、綱渡り、ジャグリングなどのテクニックを融合させながら、出演者たちの等身大の姿を描いた作品を上演した。 公演のほか、『三茶de大道芸』に合わせた劇場ツアーや、ラファエル・ボワテルによるレクチャー、ワークショップを実施した。(公演3回、ワークショップ2回)	10月27日～29日	4,500～ 2,250	公演 862 WS 延17	540	パブリックシア ター／稽古場
	海外招聘ダンス公演 Ate9 Dance Company 『Exhibit B』 『Calling Glenn』	アメリカ(ロサンゼルス)を拠点に活動するダンスカンパニーAte9の初来日公演。イスラエル出身の振付家ダニエル・アガミを中心に、躍動感あふれるダンス作品を展開した。生演奏による音楽とのコラボレーションは、ダンスに新たな表現力を付加し、日本の観客に、これまでになくパワフルなパフォーマンスに触れる機会を提供することができた。 公演のほか、ワークショップ(一般向け、パフォーマー向け)や、トークなどの関連企画を実施。アーティストとの交流のみならず、参加者同士の交流の機会も得ることができた。(公演3回、ワークショップ2回)	2024年 3月1日～3日	5,000～ 2,000	公演 1045 WS 延31	1,200	パブリックシア ター／稽古場

(3) 世田谷文化生活情報センター 音楽事業部(せたおん)

29

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
身近に親しむ演奏会	せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート	せたがやジュニアオーケストラの練習の成果発表。全体合奏ができる会場がないため、セクションごとのアンサンブルによる演奏会。A(打楽器／金管楽器)、B(弦楽器／木管楽器)の2プログラムに分けて、2回公演を行った。	11月5日	A/B 各300 ABセット券 500	A291 B283	300	烏山区民会館
	室内楽シリーズ	内外で活躍する演奏家による室内楽の演奏会シリーズ。多様で、質の高い音楽を提供した。				930	
		(1)黒田亜樹と東京ピアノランドの仲間たちーバンドネオン、北村聡を迎えて オーソドックスなクラシックとは少し趣の異なる曲目・編成で、シリーズ初めての玉川せせらぎホールでの開催。小学5、6年生を対象に、ピアノとフルートという本公演とは違った内容のワークショップも開催した。	①6月3日 ②8月24日(ワーク ショップ)	①4,000～ 3,600 ②1,000	①227 ②72		①玉川せせらぎ ホール ②世田谷美術館 講堂
		(2)小菅優&ベネディクト・クレックナー たいへんすぐれた演奏で、観客の満足度のきわめて高い演奏会となった。また、公演に先立ち、小学5、6年生を対象にして、小菅優が初となるワークショップ「一回きりの音楽授業」を行った。	①6月25日(ワーク ショップ) ②7月1日	①1,000 ②4,500～ 3,800	①16 ②281		①アレイホール ②成城ホール
		(3)成田達輝 ヴァイオリン・リサイタル 曲間にお話を交えながら、小品ながらも聴き応えのある曲目で、会場に心地よい雰囲気を作った。音響を補うため、反響板を急遽導入して良好な効果を得た。	11月18日	4,000～ 3,600	276		成城ホール
	シリーズ和・華・調	「よく来たねし 津軽民謡の世界～唄と三味線と手踊り～」 新世田谷区民会館の開館延期に伴い、急遽内容を変更して実施。伊奈かっぺいの練り上げられた構成とトークのもと、唄と三味線と手踊りが一つとなって、民謡の奥深さ・面白さを伝えた。	2024年2月4日	4,500～ 2,000	303	800	烏山区民会館
	ミュージック・ラウンジ	大人がリラックスして楽しめるコンサートのシリーズ。会社勤めなどで忙しく、生の音楽に触れる機会の少ない人たちに向けて、肩の凝らない内容の演奏会を開催。				320	
		「石井彰 月影の浪漫。」 舞台美術を工夫して、雰囲気作りに効果をあげた。情緒溢れるピアノトリオとゲスト・ボーカルの吉田美奈子による充実した演奏で、観客に強い印象を残した。	5月19日	3,500～ 3,200	225		北沢タウンホール
		「佐藤竹善 名曲日和」 伴奏に、前回に続き石井彰のピアノを得た、贅沢な顔合わせ。耳なじみのあるナンバーの数々を素晴らしい歌唱力で歌い上げ、終始観客を魅了した。	9月22日	3,500～ 3,150	256		北沢タウンホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
活動をつ なぐ演奏 会	異分野とのコラボレーショ ン	「お話と音楽でつづる 動物と音楽」 池辺晋一郎音楽監督の企画。ゲストの動物学者・今泉忠明氏との話は、内容 もテンポもよく、和やかな雰囲気で行進。粒ぞろいの音楽家たちによる演奏も秀 逸だった。	12月9日	4,000～ 3,600	208	270	烏山区民会館
	せたがや名曲コンサート	ベートーヴェン「交響曲第9番」 世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団が共演する恒例のコン サート。両団と実行委員会を形成して、運営にあたった。7年ぶりの「第九」、 尾高忠明指揮とあって、シリーズ初の完売となった。	2024年2月18日	2,500～ 1,000	1,788	1,320	昭和女子大学人 見記念講堂
	連携コンサート	意義のある企画を選んで、他の団体と共同で開催するコンサート。 (1)連携する川崎市の「かわさきジャズ2023」まちなかのフリーライブ、かわ ジャズLIVE! Rainbowに、Yuki Oka Special Trioを派遣した。	10月7日	—	—	未定	新百合ヶ丘駅南 口広場
		(2)国際事業部の第6回多文化理解講座「耳と目で感じよう～インドの音楽と 踊り」の舞台を支援した。	11月11日	〈国際事業部に記載あり〉			世田谷美術館 講堂
		(3)世田谷文学館の江口寿史展関連企画として、とり・みきと江口による公演 「帰ってくるはずじゃなかった！ 白い原稿用紙LIVE」を開催した。	11月25日	2,500	148		世田谷文学館 1階文学サロン
		(4)生活工房のトーク&コンサート「老人性アメイジング！ 寿ぐ老いとペー トーヴェン」に、クアルテット・エクセルシオを派遣した。	2024年2月25日	〈生活工房に記載あり〉			世田谷美術館 講堂
	ワーク ショップ・ 講座	せたがや音楽研究所	①新しい試み「サロン」は、観客と近い空間で、質疑応答しながらアットホーム な雰囲気の中で行った。若手音楽家の演奏も紹介した。 ②宮川彬良スペシャル・プロデューサーが音楽を紐解いていく、バラエティ形 式のコンサート。過去14回の総集編として内容を組み立て、実施した。	①6月24日(サロン) ②10月14日	①1,000 ②4,000～ 1,500	①47 ②285	300
音楽講座		区民がいろいろな形で音楽の楽しさに触れられるような講座を実施した。 (1)小菅優「一回きりの音楽授業」〈再掲〉 室内楽シリーズ出演のピアニストによる小学5、6年生対象のワークショップ。 「本物の音楽家の素晴らしさと出会うことができる」貴重な機会となった。	6月25日	1,000	16	90 ↓	アレイホール
		(2)「スティールパンの夏休み」パン！パン！パン！スティールパン講座 小学生を対象に、スティールパンを体験して、講師のスティールパン・オーケス トラPan Lumiereと一緒に演奏してみる講座を開催した。(2回)	8月9日	無料	延20		上用賀アート ホール

※ ↓は後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	音楽講座	(3)「テルミンの夏休み」街角マチコの「まちかどテルミン」 小学生を対象に、お話中心の「電波の不思議にチャレンジクラス」と体験中心の「おもしろ電子楽器マスタークラス」の2クラス実施した。	8月30日	500	14	↑ 90	梅丘パークホール
		(4)「マイ・プレイリスト」 ①サラーム海上×ユザン ②稲垣えみ子×柳家花緑 各界のクリエイターが、それぞれ「スパイシー」と「ピアノを知らない人に聞かせたい曲」をテーマに選曲し、音楽の楽しさを語った。記録紙も発行した。	①2024年2月29日 ②2024年3月21日	1,000	①68 ②57		生活工房セミナールーム
次の時代の ための プログラム	せたがやジュニアオーケストラ運営	子どもたちが、オーケストラ活動を通じて、豊かな人間性、社会性を身に付けることを目指し、年間通じて活動。連携する東京フィルハーモニー交響楽団の協力を得て、リハーサル見学や合同練習も行った。	通年	月額5,000	94	85	区内各所
	せたがやジュニアオーケストラ演奏旅行	せたがやジュニアオーケストラが、兵庫県姫路市にでかけ、同じく池辺晋一郎音楽監督を擁している姫路市ジュニアオーケストラとの合同演奏会「クロスオーバーコンサート」を行った。	8月19日～21日 (コンサート:20日)	無料	参加団員 83 コンサート 611	70	アクリエひめじ大ホール
	せたがやジュニアオーケストラ定期演奏会	一年間取り組んだ活動の成果を問う、第14回定期演奏会を開催した。俊英・出口大地の指揮で、見事な演奏を聴かせた。新世田谷区民会館で実施の予定だったが、工事の遅れにより使用できず、急遽渋谷区の施設を借用して、実施した。	2024年3月27日	1,500～ 1,000	548	800	渋谷区文化総合センター大和田さくらホール
	学校への訪問企画	体育館でのコンサートを計画していたが、日程調整がかなわず、実施することができなかった。	—	—	—	1,000	—
区民の表 現の場の 提供	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	「東儀秀樹 NEO TOGISM」 世田谷区民アーティストによる、世田谷ならではの公演。雅楽師・東儀秀樹と共に、「せたがやこどもプロジェクト2023」の関連企画として実施した。伝統的な音楽と“プロGRESSIVE雅楽”を謳う新作が交錯する内容となった。25歳以下のための無料リハーサル見学会も行った。	8月11日	4,500～ 2,000	192 リハーサル 見学 8	200	シアタートラム
	区民チャレンジ・ライブ ミュージック・バトル [区受託]	新世田谷区民会館の開館延期により、中止。	—	—	—	800	—
	世田谷区民音楽団体の支援 [区受託]	世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団、アマチュア3団体の活性化、発展を側面から支援した。	通年	—	—	3団体	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域活性 のための 文化プロ ジェクト	せたがやまちかど・まちなか コンサート	区民が身近な地域で音楽を楽しめるよう、区内各所の比較的小規模の公共施設や街角などで、小編成のバンドなどによるコンサートを実施する。 (1)せたおんまちなかコンサート 世田谷おぼっちゃまーず「クラリネットアンサンブル」(2回) バラエティに富んだプログラムで、軽妙な司会とあいまって、来場者を大いに楽しませ、大好評であった。	6月4日	無料	①268 ②254	2,000	玉川せせらぎ ホール
		(2)「スティーλπンの夏休み」まちかどバカンス・コンサート 小学生を対象に、スティーλπン・オーケストラPan Lumiereによるコンサート。楽器紹介も交えながら、こどもたちに人気の曲を中心に、親しみやすい曲を集めて、会場を沸かせた。	8月9日	無料	72		上用賀アート ホール
		(3)「テルミンの夏休み」街角マチコの「まちかどテルミン」コンサート ピアノ・打楽器奏者が共演。楽器にまつわるクイズや観客が参加して一緒に演奏する曲を織り交ぜるなど、気軽に楽しめる演出を施し、観客を喜ばせた。	8月30日	無料	83		梅丘パークホー ル
		(4)せたおんまちなかコンサート 「天上の響き やわらかな冬 〜クラシック アカペラの世界」(2回) クラシックアカペラグループEnsemble Planetaの演奏。対象や内容を変えた2回公演だったが、いずれも馴染みのある定番曲を散りばめ、クリスマスらしい雰囲気のある公演となった。	12月17日	無料	①189 ②221		北沢タウンホー ル
	Setagaya Arts Place [区受託]	世田谷区の主催するイベントや商店街のイベントに、芸人やアーティストを派遣し、イベントを盛り上げ、区民に身近な場所で気軽に文化・芸術にふれる機会を提供した。15か所で全16回実施。	7月15日～ 2024年3月3日	無料	—	—	区内各所
音楽事業 部広報	「情報ガイド」をはじめとする 各種広報活動	ホームページ、「せたおんイベント」や「情報ガイド」、さらにはマスコミ等への情報提供を通じ、事業予定・内容等を広く区民へ発信した。特に、インターネット・メディアへの取り組みに力を入れた。	通年	—	—	—	—
国際交流・ 異文化理 解の推進	ホストタウン・コンサート [区受託]	事業は受託せず、区に対して、ゴスペルの出演者を紹介、斡旋した。	—	—	—	—	—

(4) 世田谷文化的生活情報センター 国際事業部

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
市民活動 支援	せたがや国際交流センター の運営	主に、区内在住外国人の生活相談等の問い合わせに対する窓口案内などを行った。また、行政情報、生活・文化情報の他、国際交流などの地域活動団体の紹介を行った。	通年	—	4,865	4,000	せたがや国際交 流センター
	区内活動団体の支援事業	区内で多文化共生、国際交流、国際貢献活動をしている団体に対して、事業のPRや事業連携等を行った。 【せたがや国際交流センター展示コーナー提供】 世田谷区、WWFジャパン、タンザニア大使館、アフリカンアート支援機構、国際NGOプラン・インターナショナル、男女共同参画センターらぶらす、昭和女子大学、昭和女子大学附属昭和高等学校など 【広報】 (一社)世田谷トラストまちづくり、SANCHA ³ 、(福)世田谷ボランティア協会、世田谷区、生活工房、世田谷美術館、向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館、世田谷文学館など	通年	—	8団体	10団体	せたがや国際交 流センター
国際交流・ 異文化理 解の推進	区民国際交流事業	【せたがや国際メッセ】 区民が多様な文化を知り・触れることができ、参加・出展する区民団体等の活動をPRする場を提供する「せたがや国際メッセ」を区と共催で実施した。	2024年2月12日	無料	約2,500	—	日本大学文理学 部百周年記念館
	まち歩き	文化施設や商店街、様々な地域イベントをめぐるツアーなどを企画し、世田谷区在住の区民や外国人が地域の魅力を発見しながら交流することで、地域で活動するきっかけをつくる。 (1)英語でまち歩き 外国人に人気が高い豪徳寺を中心に世田谷八幡宮、豪徳寺、代官屋敷、世田谷区郷土資料館を(公財)世田谷区産業振興公社と連携して、英語でガイドを行い実施した。	12月2日	500	19	20	世田谷八幡宮、 豪徳寺、代官屋 敷ほか
		(2)やさしい日本語でまち歩き 2022年度に引き続き、やさしい日本語で九品仏浄真寺、宮本三郎記念美術館を訪問した。	2024年3月9日	500	29	20	九品仏浄真寺、 宮本三郎記念美 術館
	子ども企画	【タンザニア大使館訪問】 区立明正小学校の5、6年生を対象に区内にあるタンザニア大使館を訪問した。	7月25日	無料	15	10	タンザニア大使 館
		【英語で折り紙デコレーション】 5歳～小学校3年生の親子を対象に、国際交流センタースタッフが英語で説明をしながら折り紙でデコレーションを行った。	12月17日	500	10組	10	ワークショップ ルーム
ワーク ショップ・ 講座	【多文化理解講座】	主に区民を対象として、文化の違いなどを学ぶことができる講座を開催し、共生社会実現に向けての一助とした。					

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	第1回 ジェンダー平等って何だろう ～身の回りのジェンダーを考 えよう	国際NGO プラン・インターナショナルの職員から、ジェンダー平等について学 ぶワークショップを実施した。	4月8日	500	27	50	セミナールーム
	第2回 イスラム文化に触れてみよう ～東京ジャーミイを訪ねる	渋谷区大山町にある日本最大のモスク「東京ジャーミイ」の見学会とイスラム 文化を学ぶ講座を実施した。	①5月20日 ②6月3日	500	①28 ②35	50	東京ジャーミイ
	第3回 難民映画祭パートナーズ上 映会『マيسモールランド』	6月20日の世界難民の日を機会に国連UNHCRの協力を得て、難民映画祭 パートナーズ上映会を行った。	6月24日	1,800	59	50	K2シモキタエキ マエシネマ
	第4回 「やさしい日本語」で伝えよう	日本語が少しだけ分かる外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」とはなに か、「やさしい日本語」で話すコツを楽しく学ぶ講座を実施した。	9月23日	500	34	60	セミナールーム
	第5回 はじめての生物多様性～海 の環境保全の活動から～	世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)の職員から生物多様性の重要 性について学んだ。	10月14日	500	27	50	セミナールーム
	第6回 耳と目で感じよう～インドの 音楽と踊り	音楽事業部と世田谷美術館の協力を得て、北インド伝統音楽の演奏と南イン ド伝統舞踊により、インド文化を学んだ。	11月11日	2,000	111	50	世田谷美術館 講堂
	第7回 世田谷区の「多文化共生」を 考える	NPO法人CINGA(国際活動市民中心)から講師を招き、異文化理解の疑似 体験をし、多文化共生についての基礎知識を学んだ。	2024年1月20日	500	30	50	セミナールーム
	にほんご交流会inテンプル 大学	テンプル大学ジャパンキャンパスにおいて、テンプル大学の学生がやさしい日 本語を使った発表と参加者である日本人との交流を行った。	①7月1日 ②10月28日 ③11月25日 ④2024年3月30日	500	①68 ②51 ③61 ④64	未定	テンプル大学ジャ パンキャンパス
	韓国語でおしゃべり	国際交流センターの韓国人スタッフによる韓国語講座を実施した。	月1～3回	無料	延91	—	せたがや国際交 流センター
国際事業 部広報	韓国語でおしゃべり・クッキン グ	韓国語でおしゃべりに参加している区民を対象に、韓国語で韓国料理「チーズ タッカルビ」「トッコーチ」「スデョングァ」を作り交流した。	12月7日	500	8	—	ワークショップ ルームA
	国際事業部広報	せたがや国際交流センターの施設案内、国際事業部の事業などを情報発信し た。また国際交流活動や地域活動などを実施する団体の情報、外国人への生 活に役立つ情報、区内の施設案内なども併せて発信した。 (ウェブサイト、Facebook、X、Instagram、メールマガジン、ニュースレ ター)	通年	—	—	—	—

(5) 世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち	当館のコレクションから、古今東西、様々な手法で表現されたいろいろな動物の作品を一堂に展示する内容。作品に描かれた生命に触れながら、この時代にたくましく、のびのびと想像力豊かに生きることを考えるわたしたちのための展覧会。Ⅰ《とりたちのうた》、Ⅱ《人とともに》、Ⅲ《思いをのせて》、Ⅳ《いのちの森》、Ⅴ《ねこの園》、の5つの構成で作品を展示し、併せて展覧会会場に来場者が参加できるコーナーを設けたほか、各種イベントを開催した。(44日間のうち8日間)	(2月18日)～ 4月9日	一般500ほか	2,517 (総計: 10,174)	700 (総計: 9,000)	世田谷美術館
	麻生三郎展 三軒茶屋の頃、そしてベン・ シャーン	戦後美術を語る上で欠くことのできない重要作家・麻生三郎(1913-2000)の回顧展。麻生は1945年の東京大空襲で池袋長崎町にあったアトリエを焼失した後、戦後、1948年に世田谷区三軒茶屋にアトリエを構えた。その後、新玉川線(現・田園都市線)建設工事のために制作環境が悪化し、1972年に川崎市に転居するまでの約25年間、麻生は〈赤い空〉のシリーズなど代表作を生み出していった。 本展では、麻生の最も充実した制作時期にあたる三軒茶屋時代にスポットを当てて紹介した。また、同時代の世田谷ゆかり作家、文学者達との交流や、麻生三郎がコレクションしていた作品も紹介した。(51日間)	4月22日～ 6月18日	一般1,200 ほか	5,509	16,000	世田谷美術館
		レクチャー1「麻生三郎と出会ってーその人と作品」 講師:原田光 ※手話通訳付き	5月27日	無料	70	90	
		レクチャー2「麻生三郎アトリエを記録する」 講師:三上豊 ※手話通訳付き	6月4日	無料	50	90	
		ミニレクチャー「30分でよくわかる！麻生三郎展のポイント」(3回) ※手話通訳付き	①5月6日 ②5月14日 ③6月17日	無料	①30 ②24 ③56	①90 ②90 ③90	
	マルク・シャガール 版にのし た光の詩 ^{うた} 神奈川県立近代美術館コレ クションから	20世紀絵画を代表する巨匠のひとりであるマルク・シャガール(1887-1985)。宙を舞う恋人たちや動物をモチーフとした色彩豊かで幻想的な画風で知られ、日本でも人気の高い画家であるが、版画の分野でも大きな足跡を残している。 本展では神奈川県立近代美術館が所蔵する260点あまりのシャガール版画のなかから、『ダフニスとクロエ』や『サーカス』など各年代の代表作を含め約150点を紹介し、そこに込められた物語や制作の背景、技法による表現の違いなどを丁寧に読み解くことで、その魅力を伝えた。(50日間)	7月1日～ 8月27日	一般1,200 ほか	23,040	16,000	世田谷美術館
		学芸員によるレクチャー 「版画家としてのシャガール」(2回) ※手話通訳付き	①7月23日 ②8月12日	無料	①123 ②140	①90 ②90	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	土方久功と柚木沙弥郎 ——熱き体験と創作の愉しみ	当館の収蔵品を中心に、土方久功と柚木沙弥郎の作品を紹介した。土方久功については、1929年から約13年におよんだミクロネシア滞在を中心に紹介し、木彫やブロンズ彫刻、水彩画などを展示。また、民藝の影響を受け、芹沢銈介に弟子入りして染色家としての活動をはじめ、100歳を迎えてなお精力的に制作を続けた柚木の作品は、テキスタイルおよび立体作品などを展示した。そのほか、両者が手掛けた絵本など童話の仕事も紹介した。(50日間)	9月9日～ 11月5日	一般500ほか	10,725	10,000	世田谷美術館
		アフタヌーンレクチャー「土方久功と柚木沙弥郎」(2回) ※手話通訳付き	①9月16日 ②10月28日	無料	①30 ②50	①140 ②140	
	倉俣史朗のデザイン ——記憶のなかの小宇宙	倉俣史朗(1934－1991、1978年以降世田谷区在住)は、1960年代以降のデザイン界において、世界的に高い評価を受けたデザイナーである。富山県美術館所蔵の椅子《ミス・ブランチ》(1988年)や、京都国立近代美術館所蔵の《光のテーブル》(1969年)に代表されるように、アクリル、ガラス、建材用のアルミなど、従来の家具やインテリアの世界では用いられなかった工業素材に独自の詩情を乗せた仕事は、特に1970年代以降、世界的な注目を集めた。今回の展覧会では、内面やその思考の背景による「倉俣史朗自身」を一つの軸としつつ、その「倉俣史朗自身」と紐づけながら初期から晩年までの作品を紹介することを試みた。(57日間)	11月18日～ 2024年1月28日	一般1,200 ほか	43,505	25,000	世田谷美術館
		講演会「今、倉俣史朗を振り返る」 講師：近藤康夫 ※手話通訳付き	12月3日	無料	214	140	
	美術家たちの沿線物語 小田急線篇	世田谷区内を走る鉄道と、その沿線で活動した美術家たちの創作と交流の足跡を辿る、美術家たちの沿線物語シリーズ第4弾。 1927年に新宿-小田原間で開通した小田原急行鉄道(現・小田急電鉄)の沿線に焦点をあて、白と黒の会(経堂界限)、砧人会(成城界限)などのグループをはじめ、高山辰雄(成城)と稗田一穂(祖師谷)、横尾忠則(成城)など、当館所蔵品の中から沿線ゆかり作家の作品を集めて展示した。 また、世田谷文学館や世田谷区立郷土資料館の協力のもと、沿線の文学者や東宝スタジオの映画人の関連資料、ならびに郷土史資料も加え、世田谷ならではの独特な文化的土壌について考察しつつ作品を紹介した。(44日間のうち、38日間)	2024年2月17日～ (4月7日)	一般500ほか	7,127 (総計: 9,273)	9,000	世田谷美術館
		見学会「街歩きでめぐる成城100年」 講師：荒垣恒明、高田正彦 協力：成城学園教育研究所	2024年3月9日	無料	20	20	
		レクチャー「私鉄の街・世田谷の歴史 JRはなぜないか」 講師：岡田直 ※手話通訳付き	2024年3月16日	無料	67	140	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	美術家たちの沿線物語 小田急線篇	レクチャー「担当学芸員による展覧会解説」 講師：池尻豪介 ※手話通訳付き	2024年3月17日	無料	60	140	世田谷美術館
		レクチャー「彫刻への案内 柳原義達さんのことなど」 講師：酒井忠康 ※手話通訳付き	2024年3月23日	無料	99	140	
		レクチャー「世田谷の作曲家たち」 講師：池辺晋一郎 ※手話通訳付き	2024年3月24日	無料	57	140	
調査・研究	調査・研究						
	企画展	2024年度以降の企画展の立案・具体化のため、国内外各所との交渉や基礎的な調査研究を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館
	収蔵品等 [指定管理]	収蔵品及び美術館活動に係る調査・研究を行った。学芸員による調査研究成果を『紀要』として編集発行し、美術研究に資した。	通年	—	350冊	350冊	世田谷美術館及び分館
	アーカイブ [指定管理]	2022年度の事業のまとめとして『年報』を編集発行し、美術館活動を総括し、記録した。	通年	—	300冊	300冊	世田谷美術館
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション [指定管理]	世田谷美術館の収蔵作品を、テーマを設定して公開した。					
		第Ⅲ期 〈それぞれのふたり〉 萩原朔美と榎本了壺(105日間のうち8日間)	(2022年12月3日)～4月9日	一般200ほか	1888 (総計：21,563)		
		〈共催事業〉トーク第5回 梅スタという映像秘密基地があった！ 上映作家：かわなかのぶひろ・山崎博・安藤紘平・萩原朔美・榎本了壺 ゲスト安藤紘平 ホスト：萩原朔美・榎本了壺 ※当館は広報や会場提供などを実施。	4月8日	(2,200) ※財団の収入はなし	78		
		〈共催事業〉トーク第6回 萩原朔太郎や寺山修司、清水邦夫、萩原葉子を声で立ち上がらせる！ キャスト：萩原朔美・萩原玲子・柳沢美千代・加藤忠可・秋元紀子・鎮西猛 ホスト：萩原朔美・榎本了壺 ※当館は広報や会場提供などを実施。	4月9日	(2,200) ※財団の収入はなし	78		
		第Ⅰ期 山口勝弘と北代省三展 —— イカロスの夢(81日間)	4月22日～7月23日	一般200ほか	9,680		
		第Ⅱ期 雑誌にみるカットの世界 —— 『世界』(岩波書店)と『暮らしの手帖』(暮らしの手帖社)(92日間)	8月5日～11月19日		21,778		
		第Ⅲ期 美術家たちの沿線物語 京王線・井の頭線篇(105日間のうち99日間)	12月2日～(2024年4月7日)		26481 (総計：28,480)		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
収蔵品展	向井潤吉アトリエ館収蔵品展 [指定管理]	向井潤吉作品にかかわる作品展を年2回実施した。 第Ⅰ期 開館30周年記念 向井潤吉からの贈りもの 自選寄贈作品一挙公開！(140日間)	4月1日～ 9月10日	一般200ほか	1,991	8,100	向井潤吉アトリエ館
		第Ⅱ期 向井潤吉の描く民家と自然美 津々浦々のきらめき(128日間)	10月7日～ 2024年3月10日		2,055		
	清川泰次記念ギャラリー収蔵品展 [指定管理]	清川泰次作品にかかわる作品展を年2回実施した。 第Ⅰ期 清川泰次 絵画とテキスタイルデザイン(140日間)	4月1日～ 9月10日	一般200ほか	949	2,420	清川泰次記念ギャラリー
		第Ⅱ期 開館20周年記念 清川泰次のすべて(128日間)	10月7日～ 2024年3月10日		957		
	宮本三郎記念美術館収蔵品展 [指定管理]	宮本三郎作品にかかわる作品展を年2回実施した。 第Ⅰ期 FLOWERS and FLOWERS 宮本三郎の描く花・華(140日間)	4月1日～ 9月10日	一般200ほか	1,683	3,600	宮本三郎記念美術館
		第Ⅱ期 PATTERNS and VARIATIONS 宮本三郎 絵画の変奏曲(128日間)	10月7日～ 2024年3月10日		1,088		
資料収集・管理	資料収集 [指定管理]	貴重な美術作品及び美術に関する資料を、世田谷区民の文化的財産として蓄積していくため、区と共に収集委員会条例に基づき、美術品等を収集する。 現在、作品の購入はないが、作家本人や区民から寄贈の申し出があり、収集する機会が生ずる。これらの機会を的確にとらえ調査を行い、収集委員会への提案に結び付けた。新規委託物品445点(取得評価額132,494,400円)。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び分館
	作品保管整理 [指定管理]	収蔵品を保管・整理し、いつでも展示・公開できるように作品のコンディションを良い状態に保った。問題が生じた作品は修復や額装改善などの処置を施した。作品のデータについては収蔵品管理システムを活用し、一括管理した。また、収蔵品の公開の機会を増やすため、貸付要領に基づき作品の貸出を行った。修復、額装など58点。貸出については、貸出9件80点(うち資料4点)、返却11件72点(うち資料3点)。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び分館
アートライブラリーの運営	アートライブラリーの運営 [指定管理]	世田谷美術館が所蔵している美術専門書の閲覧やビデオ視聴、またレファレンスサービス等による情報提供を行った。	通年	—	10,229	12,000	世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	講座・ワークショップ	美術と創造の普及を目的とした各種講座、企画展に関連した講座、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした単独開催形式の講座を開催した。どなたでも気軽に参加できる100円ワークショップ、実技の体験を目的とした講座や小中学生を対象とした講座を開催した。また、ギャラリートーク・講演会・ワークショップ・コンサート、ホームページからの動画配信など様々な普及活動を行った。					
		【100円ワークショップ】 (麻生三郎展) (11回/225人)	4月8日～6月17日 の毎土曜日	100			
		「版にしるしたわたしの詩」(シャガール 版にしるした光の詩) (14回/900人)	6月24日～8月26 日の毎土曜日と8月 中の金曜日	100			
		「かたちを並べて型染めてさげ」(土方久功と柚木沙弥郎) (10回/514人)	9月2日～11月11日 の毎土曜日	100			
		「浮遊花」(倉俣史朗のデザイン) (11回/1,440人)	11月18日～2024年 1月27日の毎土曜日	100			
		「沿線物語」(美術家たちの沿線物語) (8回/401人)	2024年2月3日～3 月23日の毎土曜日	100			
		【ナイトツアー】 ナイトツアー2023「愛の画家シャガール」(56人)	8月26日	500			世田谷美術館 創作室
		宮本三郎記念美術館 サマー・ワークショップ2023 「じぶんだけのお花をつくる」(125人)	8月11日～13日	300			
		宮本三郎記念美術館 「コサージュづくりで感じる 宮本三郎の花」(15人)	8月20日	5,000			宮本三郎記念美 術館
	美術大学	講義・実技を組み合わせた半年間の本科を、人数を制限した40人(通常は定員60人)で開催。その他、ホームページからの動画配信などを通じての通信講座を引き続き開催した。また修了者を対象としたステップアップ講座も規模を縮小して開催した。	通年	本科70,000 ステップアップ 講座1,000～ 12,000	455	460	世田谷美術館 オンライン
	パフォーマンス						
	プロムナード・コンサート	美術館を音楽による交流の場とするとともに、若手音楽家の育成を図ることを目的に、実力ある若手を中心とする音楽家によるリサイタル形式のコンサートを行った。(2回) 美しい日本歌曲2重唱 一小林仁編曲	2024年2月18日	無料	140	140	世田谷美術館
		トリオ トライム～ユーフォニアムの響きと～	2024年3月29日	無料	140	140	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	パフォーマンス等イベント	「蛙犬プロジェクト Frog Dog Project」 「世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち」展に関連し、美術家の吉田萌とともにさくら祭でのパフォーマンス(4月1日、2日)や、さらに演出家・振付家のルカ・ヴェジェッティを迎え、ワークショップ・成果公演・トークイベントを実施した(4月9日、12日～14日)。パフォーマンスの様子(一部)は動画配信も行った。	4月1日～2日、9日、 12日～14日	500ほか	77	200	世田谷美術館
		「Performance Residence in Museum 2023-24」 演劇家の藤原佳奈を滞在アーティストとして招聘し、当館の建築空間や教育普及の取り組みを活かしたアーティストの創造支援を実施した。また、Webにてアーティストのインタビューの動画配信や、活動の様子のアーカイブを公開した。	12月20日～ 2024年2月4日	無料	176		世田谷美術館
子どもと学 校プログラ ム	美術鑑賞教室	世田谷区教育委員会との連携により、世田谷区立の小学校4年生の児童、中学校の生徒を対象に、展覧会及び美術館内の施設見学を実施した。またそのための区立小学校への出張授業を実施(22校)した。また、ガイドブックの作成を行い全小学校4年生と全中学生に配布した。(計90校)				17,300	世田谷美術館 区内小・中学校
		【小学生】美術鑑賞教室・来館者数 6,425人(年間61校(68日)) 無料鑑賞券利用者 102人	5月～2024年3月	—	(ガイド配付 数)6,425		
		【中学校】個別鑑賞教室・来館者数 1,144人	5月～2024年3月	—	(ガイド配布 数)12,700		
人材育成 プログラム	学校との連携	学芸員後継者育成と美術館諸活動の普及のために、博物館学実習生や学芸大学インターン生などを育成した。				40	世田谷美術館 オンライン
		(1)博物館実習 学芸員後継者育成と美術館諸活動の普及のために、博物館学実習の講義及び普及事業を中心とする実技を行った。(9日間)※講義についてはライブ配信も併用した。	6月17日～11月4日	10,000	18		
		(2)インターンシップ 長年の実績がある東京学芸大学インターン生を育成し、美術鑑賞教室で来館する区内小学校4年生への事前(事後)出張授業を行う特別プログラムを実施した。(区内小学校22校)	通年	—	インターン生 9 実施校児童 2,242		
		(3)「世田谷美術館×区立小学校 交流会 美術鑑賞を徹・底・解・剖！」 区内の各地域や学校と連携、コラボレーションし、世田谷美術館のコレクションを活用したワークショップや美術鑑賞についての講演を実施した。	8月22日、23日	無料	66		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
アクセシビリティ向上事業	アクセシビリティ向上事業	展覧会に関連した講演会において、より良い理解を目的として、手話通訳を手配し、配置した。	通年	—	32	10	世田谷美術館
	ミュージアム・セッション	視覚障害者と晴眼者がともに美術を鑑賞し、豊かなコミュニケーションを育むという新しい実践についての講演会等を予定していたが、事業協力者の都合によりやむなく中止した。	—	—	—	100	世田谷美術館
区民の表現の場の提供	区民展	世田谷区もしくは川場村在住・在勤・在学者を対象に、作品の募集を行い、区民ギャラリーにて展示した。	10月～ 2024年3月	無料	288	250	世田谷美術館
	区民ギャラリー等の貸出 [指定管理]	世田谷美術館及び清川泰次記念ギャラリーにおいて、創作活動発表の場として区民ギャラリー及び講堂の貸出を行った。					
	美術館(本館)区民ギャラリー	創作活動発表の場として、世田谷美術館の区民ギャラリーA・B貸出を行った。(利用団体数110)	通年	1日あたり1室 13,820ほか (利用は6日単位)	57,214	75,000	世田谷美術館
	清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー	創作活動発表の場として、清川泰次記念ギャラリーの区民ギャラリー貸出を行った。(利用団体数43)	通年	1日あたり 2,880ほか (利用は6日単位)	5,205	4,000	清川泰次記念 ギャラリー
地域活性のための文化芸術事業	美術館(本館)講堂	文化・芸術に関する活動・発表の場として、美術館活動に支障のない範囲で世田谷美術館の講堂貸出を行った。(利用団体数37)	通年	1日10,800ほか	2,245	1,300	世田谷美術館
	ボランティア活動	世田谷区立小学校鑑賞教室及び出張授業、中学校鑑賞教室、川場村小学校出張授業、ミュージアム・ツアー、ワークショップ、イベント等の支援を行った。	通年	無料	289	250	世田谷美術館 ほか
	さくら祭	砧公園のお花見客への当館のPRを目的として、エントランス広場でのミニワークショップ、パフォーマンス、フリーマーケットなど行った。	4月1日、2日 2024年 3月30日、31日	—	12,000	3,000	世田谷美術館
美術館広報	美術館広報	当館ウェブサイトやSNS、印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信した。	通年	—	—	—	—
	ニュースレター(美術館だより、友の会だより)等の発行	①「ニュースレター 美術館だより、友の会だより」年3回、6月・10月・2024年2月発行、各1,500部の発行 ※友の会分をあわせると各3,000部 ②「年間予定表」2024年3月発行、50,000部の発行	①6月、10月、 2024年2月 ②2024年3月	—	54,500部	54,500部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ	妖怪絵や化け猫図などの主題で知られる画家・石黒亜矢子(1973～)、初の大規模企画展を開催した。画家としての仕事のほか、『ばけねこぞろぞろ』『いもとかいぎ』『えとえとがっせん』『どっせい！ねこまたずもう』『ねこまたごよみ』『つちんこつつちゃん』などの多くの読者に愛されている絵本作品の世界を、迫力あるダイナミックな自筆原画で伝えた。 また、本展では最初期の絵画作品をはじめ、挿画・イラスト・最新作まで、これまで一体的に紹介されることの少なかった石黒亜矢子のクリエイティビティの全貌に迫った。	4月29日～ 9月3日	1,000～300	21,298	19,000	世田谷文学館
	シーズン展示 「どっせい！ねこまたずもう～夏場所～」	石黒亜矢子展に関連し、夏休み期間中の子ども向けのお楽しみ企画として実施。石黒作品の中でも人気の高い絵本『どっせい！ねこまたずもう』を題材に、参加者の動きと連動しながら、絵本の登場人物と相撲をとることが出来る仕組みのインタラクティブ・メディアアートとして展開した。大人も子どもも年齢を問わず参加することが出来、また一人でも参加できるプログラムとしたため、予想を超える来場があった。 無料で実施することで、石黒作品に触れたことがない来場者にも気軽に参加してもらい、絵本や作品への興味を喚起することができた。	7月22日～ 8月31日	無料	7,064	5,000	世田谷文学館
	江口寿史展 ノット・コンプリーテッド	『すすめ!!パイレーツ』『ストップ!!ひばりくん!』ほか強烈なギャグマンガで人気を博し、現在ではイラストレーターとしても活躍中の江口寿史(1956～)。イラストレーションの数々は、幅広い世代に浸透し、後進の作家たちに影響を与え続けている。 本展では江口寿史の原点である漫画に焦点をしぼり、その画業を振り返った。漫画作品の他、作者が手掛けたCDジャケットの展示や執筆部屋の再現を行い、江口寿史セレクションの音楽をBGMとして流すことで展示に没入できる空間を演出することができた。当時の読者である50、60代からポップカルチャーへの親しみが深い若年層まで幅広い年齢層が訪れ、親子での来場も見受けられた。リピーターが多かったのも本展の特徴である。 関連イベントはすべて江口寿史本人が出演し、作家とファンとの貴重な交流の場となり、ファンの熱意を感じることができた。連携事業として、音楽事業部を主催として江口寿史と漫画家とり・みき出演の音楽ライブも開催した。	9月30日～ 2024年2月4日	1,000～300	19,018	18,000	世田谷文学館
調査・研究	調査・研究 [指定管理]	文学館活動の基盤となる収蔵コレクション及び世田谷ゆかりの作家・ゆかりの作品の調査・研究を行い、コレクション展や資料集としてその成果を公表する。本年度は資料の翻刻を中心とした資料集「収蔵資料〈調査と探究〉01 石川淳／椎名麟三[上巻]」を刊行した。	通年	—	—	—	世田谷文学館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
収蔵品展	コレクション展 [指定管理]	文学館が収蔵する貴重な文学資料を核に、世田谷ゆかりの文学者、映画人の資料を展示紹介し、区民に広く親しむ機会を提供した。 【前期】 没後50年・椎名麟三と「あさって会」 没後50年にあたる小説家・椎名麟三(1911-1973)の生涯と作品を特集し、椎名の模索し続けた「ほんとうの自由」とは何かに迫った。同じく松原に住み親しく往来した梅崎春生ら戦後派作家たちの様相を当館収蔵品とともに展示した。本展準備に伴う調査結果は、「収蔵資料(調査と研究)01 石川淳／椎名麟三[上巻]」に反映させた。	4月22日～9月3日 (展示室内の設備不具合に伴う点検・整備のため、8月6日で閉幕)	200～100	3,836	15,000	世田谷文学館
		【後期】 衣裳は語る——映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事 東宝・砧撮影所初の専属衣裳デザイナーとして、日本映画黄金期に現代劇から時代劇まであらゆるジャンルで活躍した柳生悦子(1929-2020)の仕事を、生前本人から寄贈された多くのデザイン画とともに紹介した。あわせて400点の衣裳デザイン画を閲覧できるデジタル展示プログラムも開発した。	10月7日～ 2024年3月31日	200～100	8,369		
資料収集・管理	資料収集・管理 [指定管理]	世田谷ゆかりの作家や区民等からの寄贈・寄託により、文学資料等の収集、および世田谷区が所有している作品を系統的に整理するとともに、良好な状態で保存・展示するため保管管理し、計画的に調査を進めた。保管環境の維持・向上のため、展示室・収蔵庫および周辺部の環境確認のための環境調査のモニタリングを年間を通じて実施した。災害等緊急時のコレクション保護のための環境整備を行った。また、貸付要領に基づき、コレクションの貸付を行った。逼迫した課題である収蔵庫 狭小化対応のため、引き続き収蔵資料の保管場所の見直しと保管場所確保のための2階3階両収蔵庫の整理作業を行った。 2024年3月31日現在106,737点の収蔵品を保管・登録(2023年度新規収蔵品:4,958点 *宇野千代資料2,600点、北杜夫資料2,250点含む) 資料貸付:5件94点 特別観覧:14件47点 特別閲覧:8件466点	通年	—	—	—	世田谷文学館
OAシステム	OAシステムの運用 [指定管理]	世田谷文学館の収蔵資料を適切に管理し、活用・公開を促進するために収蔵品管理システムの管理運営を行った。またホームページ上での主要収蔵資料の検索サービスに関しても、その内容を段階的に拡充した。資料集「調査と探究」についてもホームページからのダウンロードを可能とした。	通年	—	—	—	世田谷文学館
地域連携事業	どこでも文学館	「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内でのイベントやワークショップのプログラムの開発を進めた。子ども対象だけではなく世代間交流イベントなどより広い層の利用者獲得を目指した。学校や地域と連携しての写真展や文学作品のパネルなどの出張展示を実施し、出張展示キットの全国への貸し出しも行った。(出張展示29回、ワークショップ延べ4回を実施) コンサート「0才からのジャズコンサート」 0才から大人まで楽しめる本格ジャズコンサート。感染症対策に留意しながら人数制限を緩和してイベントを実施した。乳幼児もリズムを感じて体を動かし、二世帯、三世帯の子ども連れ家族で賑わった。(3回)	10月18日	中学生以上 1,800 子ども 300	339	60,000 ↓	世田谷文学館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	講座「生業さがし 小説家という職業」 将来の仕事を具体的に考え始める高校生を対象に本にまつわる職業をしてもらうイベント。第3弾の今回は現役の小説家を招いて、小説家になるまでや出版業界の話、小説を書くにあたってのモチベーションやコツについてなど具体的な話を聞いた。	11月18日	無料	3	↑ 60,000 ↓	世田谷文学館
		ワークショップ「ことばとからだ『シン・モモタロウ』をダンスでおどろう！」 昔話の「桃太郎」をアレンジしてオリジナルダンスを創作。新たなプログラムで元気いっぱいダンスを完成させた。	12月10日	無料	11		世田谷文学館
		学校連携ワークショップ「落語をたのしもう～笑いを生み出してみよう」 区立芦花小学校4年生が、講師の指導で日本の古典芸能である落語について学んだ。グループワークや個人練習を通して落語の演技や所作を身につけ自分の落語を創作した。日常生活でも実践できる「人を傷つけない笑い」についても考えを深めた。	12月9日	無料	171		芦花小学校
		ワークショップ「だれでも探検家」 探検家の高橋大輔氏を講師にリアルイベントで開催。近隣の蘆花恒春園でワークシートに沿って探検を進めた。探検の基本を学んだあとは文学館に戻りサバイバルテクニックのひとつとして、「災害時にも使える身近なものの活用方法」を実践的に学んだ。	1月21日	無料	12		蘆花恒春園 世田谷文学館
		出張展示「シートン動物記」	4月1日～6月29日	無料	4,873		川場村 ふじやま ビレジせせらぎの湯
		出張展示「井上ひさし ふかいことをゆかいに」	4月1日～6月29日	無料	2,450		川場村 なかの ビレジB棟
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	6月8日～7月11日	無料	2,044		コミュニティカ フェななつのこ
		出張展示「書家による 世田谷ゆかりの作家たち展」	6月30日～ 11月16日	無料	8,019		川場村 ふじやま ビレジせせらぎの湯
		出張展示「SF入門vol.2星新一」	6月30日～ 11月16日	無料	4,291		川場村 なかの ビレジB棟
		出張展示「SF入門vol.1星新一」	7月21日～8月23日	無料	49,174		中央図書館
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	8月2日～8月27日	無料	5,134		奥沢図書館
		出張展示「山へ！to the mountains」	8月19日～9月14日	無料	33,662		江東区立江東図 書館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	出張展示「宮西達也と子どもたち」	9月1日～9月26日	無料	790	↑ 60,000 ↓	弦巻小学校
		出張展示「水上勉のハローワーク」	9月1日～9月30日	無料	439		弦巻中学校
		出張展示「SF入門vol.1星新一」	9月1日～9月30日	無料	380		三宿中学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	9月1日～10月11日	無料	307		代田小学校
		出張展示「シートン動物記」	9月14日～10月4日	無料	445		太子堂小学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	9月14日～ 11月29日	無料	36,184		粕谷図書館
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	9月22日～ 10月20日	無料	1,108		山野小学校
		出張展示「井上ひさし ふかいことをゆかいに」	9月22日～ 10月31日	無料	323		駒留中学校
		出張展示「詩人 萩原朔太郎」	9月26日～ 10月24日	無料	33,752		中央図書館
		出張展示「OSAMU'S MOTHER GOOSE」	9月26日～ 10月25日	無料	696		船橋希望中学校
		出張展示「セタブン人生相談」	10月2日～ 10月24日	無料	533		烏山中学校
		出張展示「シートン動物記」	10月4日～ 10月31日	無料	653		祖師谷小学校
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	10月11日～ 10月25日	無料	506		世田谷小学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	10月20日～ 11月21日	無料	323		池之上小学校
		出張展示「シートン動物記」	11月2日～ 11月30日	無料	357		山崎小学校
		出張展示「SF入門vol.1星新一」	11月2日～ 11月30日	無料	362		玉川中学校
		出張展示「水上勉のハローワーク」	11月2日～12月8日	無料	877		千歳小学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	12月3日～ 2024年2月7日	無料	8,487		奥沢図書館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携事業	どこでも文学館	出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	2024年1月16日～ 2月1日	無料	1,052	↑ 60,000	芦花小学校
		出張展示「セタブン人生相談」	2024年2月9日～ 3月17日	無料	6,724		奥沢図書館
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	2024年2月16日～ 3月28日	無料	49,513		中央図書館
		出張展示「ヨシタケシンスケさんの絵本～きみだったらどうする？」	2024年3月1日～ 3月31日	無料	380		館内文学サロン
	幼保連携事業 [区受託]	世田谷区教育委員会の「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」の基本方針の一つである「文化・芸術とふれあうための各園等における環境づくり支援」の一環として、乳幼児を対象とした文化・芸術体験のアウトリーチ事業と連携するため、世田谷文学館が制作した出張展示用バナーセットの展示を、当委員会から委託を受け実施した。				200	
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	10月4日～ 10月31日	無料	42		給田幼稚園
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	11月2日～ 11月30日	無料	119		上北沢保育園
講演会等事業	企画展・コレクション展・ライブラリー関連講演会、上映会、コンサート等事業	「石黒亜矢子展」では「都市ボーイズライブ・怪奇オカルトショー」(5月20日)、「おお雨・ライブ『化け猫ロック』」(6月17日)を開催し、展覧会を盛り上げた。 「江口寿史展」では、江口氏によるライブドローイング(9月30日・10月1日・10月14日)、ライブスケッチ(10月28日・11月3日)、音楽ライブ「帰ってくるはずじゃなかった！ 白い原稿用紙LIVE」を開催した。 コレクション展に関連しては、「椎名麟三展」を記念して、椎名原作の映画「煙突の見える場所」上映会(8月6日)、ムットーニの口上付き上演会(12月2日・3日)を実施した。	通年	1800～無料	1,248	2,000	世田谷文学館
	オンライン講演会・講座	「辻原登の文学と魅力とは ～小説と人生～」 作家・辻原登氏と当館館長・亀山郁夫の対談を実施し、記録映像を後日配信した。	9月23日	500	49	2,000	世田谷文学館 オンライン
	地域のまつり等との連携	コロナ禍で休止していた地域のまつりのうち「蘆花まつり」が復活し、館のブースを設置してゲームを提供するなど、地域との交流を図った。	10月22日	無料	—	1,000	蘆花恒春園

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
活動支援・共催事業	市民活動・友の会の支援など	世田谷文学館友の会をはじめ、文学活動を中心とする区内外の団体の講座や活動を支援し、市民の生涯学習の要望に応えた館外講座、館内レクチャーを実施した。	通年	—	915	500	世田谷文学館ほか
人材育成プログラム	学芸員実習	学芸員後継者育成のために、博物館学実習の講義・実習を行った。(6日間)	7月26日、27日、28日、8月1日、2日、3日	無料	4	5人以内	世田谷文学館
	職場体験などの受入	参加者は博物館の仕事全般を学び、事業の企画や実施にも直接携わることができるプログラムで、近隣の中学校などからの職場体験、職場見学を受け入れた(6校)。感染症対策でオンラインでも受け入れていたが、2023年度は全校来館希望で対面実施した。	通年	無料	38	30	世田谷文学館
ライブラリーの運営	ライブラリー「ほんとわ」の運営 [指定管理]	幼児向けのプレイマットや授乳室などのベビーケア設備を備えた子どものための本のエリアや、各分野で活躍するプロフェッショナル、作家が薦める選書コーナーの充実など、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を提案し、地域のための図書空間を企画・運営した。さらに2023年度は新たに朗読企画としてYouTube動画を制作し、新たな文学への親しみ方の提案を試みた。3階閲覧室においては、収蔵している閉架資料の閲覧サービスを行った。	通年	—	17,997	15,000	世田谷文学館
文学館広報	文学館広報	新聞広告や印刷物のほか、ホームページやSNSなどのソーシャルメディアを駆使した広報活動を継続するとともに、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動内容について広く区民等へ発信した。2023年度は、館内アンケート・企画展開催情報の多言語配信に加え、千歳烏山駅からのアクセス方法周知を開始し、利用者の利便性向上に繋げた。	通年	—	—	—	—
	ホームページコンテンツ制作 「ほんとわラジオ」放送 文学館ニュースの発行 「セタブンパス」事業	文学館の事業活動を広く周知するため、ホームページコンテンツの制作、文学館ゆかりのゲストを招いたトーク番組「ほんとわラジオ」の放送、文学館ニュースを年2回発行した。 ◇「ほんとわラジオ」(エフエム世田谷83.4MHz 毎週木曜日11:00～11:30 パーソナリティ・河西美紀) ゲスト:(4月)宮沢和史、(5月)持田叙子、(6月)石黒亜矢子、(7月)斎藤由香、(8月)荒居蘭、ムトーニ、(9月)若狭新一、(10月)とり・みき、(11月)江口寿史、(12月)江口寿史・浦沢直樹、(2024年1月)桜井浩子、(2月)紅野謙介、(3月)松井五郎 新たな広報展開として、利用者サービスの充実を目的とした「セタブンパス(旧称:セタブン特別パスポート事業・仮称)」を開始した。	通年	—	—	「ほんとわラジオ」放送 52回 「文学館ニュース」 各10,000部	—

(7) 財団共通

48

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
来館者サ ポート	来館者サポート	様々な状況にあるお客様の参加機会を増やすために、公演、イベント、施設利用などにおいて来館者サポートを行った。					
		【生活工房】					
		①車椅子の貸出	通年	—	—	—	セミナールーム ほか
		②授乳室の設置	通年	—	—	—	授乳室
		③視覚・聴覚障害者等と共に映像を鑑賞するプログラムの企画・実施	通年	—	9	—	オンライン
		④「世田谷クロニクル」HPにて、音声による映像解説を公開	通年	—	—	—	オンライン
		【世田谷パブリックシアター】					
		①託児サービス 託児付き公演(449公演)	通年	2,200	92	—	パブリックシア ター/シアタート ラム
		②車椅子サービス(貸出、スペースの確保、車椅子昇降機など)	通年	定価の10%引、 付添1名無料	94	—	
		③視覚障害者のための音声案内システム付き化粧室の設置	通年	—	—	—	
		④視覚障害者のための舞台説明会(主催公演のみ)	7月8日、11月19日 2024年3月23日	—	29 視覚障害者 うち15	—	パブリックシア ター
		⑤視覚障害者のための音声ガイド	7月8日	—	10	—	パブリックシア ター
		⑥補助犬を伴っての観劇(スペースの確保など)	通年	—	—	—	パブリックシア ター
		⑦聞こえにくい方向けのヒアリングサポートシステム(特定の公演のみ)	通年	—	13	—	パブリックシア ター/シアタート ラム
		⑧聴覚障害者のための上演台本貸出	通年	—	3	—	
		⑨聴覚障害者のための手話動画(劇場HP)によるアクセス案内 及びチケット購入方法等の案内	通年	—	—	—	
		⑩聴覚障害者のための筆談具設置	通年	—	—	—	
		⑪聴覚障害者のための字幕付上演(特定の公演のみ)	6月25日、29日 2024年3月16日	—	15	—	
		⑫多言語情報発信	通年	—	—	—	劇場ホームペー ジ
		⑬非常時の避難方法及び広域避難場所への地図の配布など	通年	—	—	—	パブリックシア ター/シアタート ラム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
来館者サ ポート	来館者サポート	【世田谷美術館】 ①講演会での手話通訳	通年	—	—	—	世田谷美術館
		②車椅子の貸出	通年	—	—	—	
		③ベビーカーの貸出	通年	—	—	—	
		④授乳室の利用など	通年	—	—	—	
	来館者サ ポート	【世田谷文学館】 ①車椅子の貸出	通年	—	—	—	世田谷文学館
		②ベビーカーの貸出	通年	—	—	—	
		③授乳室の利用	通年	—	—	—	
		④託児サービスの実施など	実施せず	—	—	—	
	せたがやアートカード	世田谷区在住の15歳以上を入会資格とする無料の会員制度。財団主催の公演チケットの割引・先行発売や展覧会観覧料割引などの特典により、事業参加者や施設利用者の拡大を図った。メールマガジン配信を希望する会員には、各事業部の最新情報を提供した。 会員の利便性向上のため、2023年4月より、財団ホームページからオンラインでの新規入会申込み、登録の会員情報の変更及び退会の届出を可能としている。	通年	無料	会員数 19,059 メルマガ 配信者数 12,022 特典利用者 4,181	19,000	—
財団広報	財団広報	財団ホームページの運用 財団運営に関する情報及び各事業部の事業内容等を掲載した。	通年	—	—	—	—
		第44回せたがやふるさと区民まつりでPR活動を行った。	8月5日、6日	—	—	—	若林公園ほか
		財団概要誌(財団パンフレット)改訂版を2024年4月1日に発行するため、改訂作業を行った。	2024年2月～3月	—	1,000部	—	—
	せたがや文化・スポーツ情報 ガイドの発行	財団各部の事業を広く区民等に周知するため、タブロイド判の情報紙を発行した。区報25日号と合冊し、新聞(主要6紙)に折込んでの戸別配布、図書館等の区施設、区内鉄道駅広報スタンド等に配架した。(12回)	毎月25日発行	無料	毎月 185,300部	毎月 185,300部	—
文化芸術 の拠点施 設の管理 運営	世田谷文化生活情報セン ターの施設維持管理 [指定管理]	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文化生活 情報センター
		生活工房セミナールーム、ワークショップルームの貸出を行った。	通年	9,790～ 3,160	15,522	—	世田谷文化生活 情報センター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
文化芸術 の拠点施 設の管理 運営	世田谷文化生活情報セン ターの施設維持管理 [指定管理]	世田谷区内の劇団等による演劇・舞踊公演など、様々な催し物を実施した。 1団体(公演回数26回)	通年	7,300～ 3,500	4,096	—	世田谷文化生活 情報センター
	世田谷美術館及び分館の施 設維持管理 [指定管理]	世田谷美術館及び3分館(向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮 本三郎記念美術館)の施設維持管理、区民ギャラリー及び講堂の貸出を行っ た。 世田谷美術館区民ギャラリー 110団体	通年	1日あたり1室 13,820ほか (利用は6日単 位)	57,214	—	世田谷美術館
		清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー 43団体	通年	1日あたり 2,880ほか (利用は6日単 位)	5,205	—	清川泰次記念 ギャラリー
		世田谷美術館講堂 37団体	通年	1日10,800ほか	2,245	—	世田谷美術館
	世田谷文学館の施設維持管 理 [指定管理]	世田谷文学館の施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館
		講義室の貸出を行った(108件)。	通年	無料	1,389	—	
物品販売 事業	生活工房事業関連商品の販 売	事業に関連するグッズ、制作物等の販売を行った。	適宜	—	—	—	世田谷文化生活 情報センター
	パブリックシアター関連商品 の販売	世田谷パブリックシアターとシアタートラムで上演された公演のパンフレットや 映像化したDVD等の関連商品の販売を行った。	通年	1,500～500	94件	—	世田谷文化生活 情報センター
	美術館ミュージアムショップ の運営	美術館・分館のミュージアムショップを運営し、収蔵作品をモチーフとしたオ リジナルグッズ・絵葉書等の開発・制作及び販売、また企画展開催時における 関連グッズ・絵葉書・書籍等の販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館及 び3分館
	文学館ミュージアムショップ の運営	ミュージアムショップを運営し、オリジナルグッズの開発・制作及び販売、展覧 会に関連した書籍や絵葉書等のグッズの販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館
飲食物提 供事業	パブリックシアターのロビー カフェの運営	世田谷パブリックシアターのロビーのカフェを委託により運営した。(営業回数 114回)	—	—	5,000	10,000	世田谷文化生活 情報センター
	美術館のレストランの運営	世田谷美術館内のレストラン「ル・ジャルダン」は、利用者等への飲食提供サー ビスおよび結婚式等パーティー(48組)を実施した。	通年	—	13,242	20,000	世田谷美術館
	美術館のカフェの運営	世田谷美術館内の地下喫茶「セタビカフェ」にて、来館者への飲食提供サービ スを行った。	通年	—	31,372	30,000	世田谷美術館

3. 事業評価

(1)生活工房

区民の暮らしに身近な文化施設として、デザインや生活文化を題材とした生活工房らしい、あるいは世田谷ならではの多彩な事業を展開した。いずれの事業も、来場者アンケートでは企画に対する評価や今後に期待する声が多くあった。来場者数は令和4年度に続き15万人を超えた。

「牧野伊三夫展」では、巨大壁画の作品や、ユニークな弁当の販売とトークイベントなど、作家の活動の魅力を伝えた。「映像のフィールドワーク展 vol.2 ひもをうむ、あむ、くむ、むすぶ」では、身近にある素材を使った創作ワークショップを数多く実施し、自分の手で「やってみる」ことの大切さ、ものづくりの楽しさを体験する機会を多く提供した。「あみきをほどく」展では、編み機にまつわる思い出を募集したところ、様々なエピソードが寄せられ、編み物スペースでは年齢・性別を問わず多くの参加者があった。

「世田谷のまちと暮らしのチカラ まちづくりの歩み50年」展は、ギャラリーとワークショップルームを会場とし、令和元年以来の大型展示となった。世田谷区内の各団体、鉄道会社、大学など、多くの機関・個人の協働で充実した展示が実現した。ギャラリートークや各種関連イベントを毎週末に実施し、様々な協働によるまちづくりの成果を広く伝える機会となった。

様々な人が集い、対話し、ともに学ぶ場としてセミナーやワークショップを実施した。「こども・おや・じぶん」は、ゲストの話を聞いた後にグループ対話の時間を設けることで、濃い時間が過ごせたという参加者が多くあった。「老人性アメイジング！」は、ネガティブに捉えられがちな「老い」を豊かなものとして捉え直す試みとして、トークや講演とあわせ、音楽事業部と連携した弦楽四重奏の鑑賞という独自のプログラムで、多くの参加者から好評を得た。「どう？就活 vol.3」では、幅広い世代の参加者があり、働き方だけでなく、生き方を考える機会となった。いずれの事業も、参加者同士が積極的に交流し、様々な価値観が共有される場となり、参加者の満足度が高かった。

三軒茶屋にキャンパスを置く昭和女子大学環境デザイン学科との連携でワークショップルームとキッチンを活用した展示を実施したほか、福祉等の機関と共催したイベントや、「世田谷クロニクル」を活用したアウトリーチによる事業の展開にも取り組んだ。なお「世田谷クロニクル」は、美術館や博物館への映像の貸出や使用希望が増えるなど、利活用が広がっている。

広報や情報発信も積極的に行い、ホームページのページビュー数は令和4年度より約90%増加した。

過年度事業も含め公開している YouTube のチャンネル登録者数は令和4年度より683名増え(総登録者数2,330名)、令和5年度の視聴回数は4万回近くとなった。

(2)世田谷パブリックシアター

新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いが変更となり、感染症への対応も一つの大きな転換点を迎えた。観客動員については、主劇場・シアタートラム両劇場の年間入場者総数は143,908人となった。令和4年度(133,281人)と比較して1万人以上の増加であり、コロナ禍に見舞われる直前の平成30年度(146,711人)とほぼ同等の観客数となった。動員面に関する限り、コロナの影響はほぼ払拭されたと捉えることも可能であるが、出演者やスタッフに感染者が発生した場合に公演が中止となるリスクが去ったわけではなく、特に感染拡大期には十分な感染症対策をとって事業を実施した。結果として、令和5年度も公演や事業中止が発生しなかったことは、関係者全てのたゆまぬ努力の結晶であったと考えている。

こうした中で制作した作品群が高い評価を得たことも特筆される。特に『無駄な抵抗』は第31回読売演劇大賞において、最優秀女優賞(池谷のぶえ)、優秀演出家賞(前川知大)、優秀スタッフ賞(土岐研一)を受賞し、年度を代表する作品の一つとして認知されたとと言える。

普及啓発・人材育成事業では、「コミュニティプログラム」「学校とその他区内施設との連携プログラム」「研究育成プログラム」の3つの柱により、通年でワークショップ・レクチャー・研究会を実施しているが、ポストコロナを見据えた事業の見直しや新たな展開に着手したことが特筆される。劇場開場以来継続している「地域の物語」は、令和5年度は世田谷区内の社会福祉法人や障害当事者の方々と連携して作ってきた作品の上演を中心に据えた企画とし、これまでを振り返るとともに、将来の事業の方向性を探る機会とした。また、障害当事者と共に作り上げた「学校のためのワークショップ」の企画について、文化庁ユニバーサル公演事業として採択を受け、全国の小学校で上演する試みを開始した。公共劇場における演劇ワークショップ事業の先駆者として世田谷パブリックシアターが蓄積してきた知見を地方の実施主体と共有する機会ともなっており、今後さらなる拡大発展も期待される。

コロナ対応が大きな節目を迎えた中、令和4年度に就任した白井晃芸術監督のリーダーシップのもと、国内外の公共劇場や民間の実演団体などと積極的に連携して、作品創造及び人材交流の活性化、普及啓発・人材育成事業の充実、多様な料金設定、バリアフリー対応の充実による鑑賞機会の拡充および多言語による情報発信、新たな観客の育成等、本格的なポストコロナの時代を迎えるための下地づくりを行うことができた一年となった。

(3)音楽事業部(せたおん)

新世田谷区民会館の開館延期の対応に追われた1年だった。令和5年度事業のハイライトとなるはずのオープニングイベント5事業のうち、3事業が中止、2事業が変更となった。

在籍期間に限りのある「せたがやジュニアオーケストラ」のメンバーにとって、事業の変更は取り返しのつかない事態だが、一同奮起した。夏休み、姫路市ジュニアオーケストラとの合同演奏会のための「演奏旅行」で絆を深めると、秋にアンサンブルによる「オータムコンサート」を行い、技術を磨いて、「定期演奏会」に臨んだ。結果的に、演奏は過去最高と言ってよいものになった。指導を受けている東京フィルハーモニー交響楽団との連携の深化が大きく、中でも、本来予定していた指揮者バツティストニを迎えての合同練習が、目覚ましい成長につながった。

もうひとつ変更となった事業、日本の伝統音楽を紹介する「シリーズ和・華・調」は、急遽企画した『よく来たねし 津軽民謡の世界 ～唄と三味線と手踊り～』が大成功を収めた。さながら会場を「津軽の地」に変えるようなステージで、民謡の持つ魅力を再認識させた。変更した2事業で、素晴らしい成果を上げることができたのは、今後のせたおんの糧となるであろう。

同様に、オープニングイベントが中止となった、世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団だったが、予定通り巨匠・尾高忠明の指揮を得て、「せたがや名曲コンサート」を開催。7年ぶりに『第九』を演奏して、満席の昭和女子大人見記念講堂に感動をもたらした。

定番の事業でも、充実した内容の公演が続いた。回数を増やした「室内楽シリーズ」は、ジャンルを超え縦横無尽の演奏を聴かせた黒田亜樹、世界の第一線で活躍するレベルを示した小菅優&ベネディクト・クレクナー、古今東西の名曲に旬を吹き込んだ成田達輝の3公演、いずれ劣らぬ喝采に包まれた。黒田と小菅の子ども向けワークショップも、他では得られない貴重な機会となった。

演奏はもとより、会場のリラックスした雰囲気好感を得て、2年目にしてシリーズとして定着しつつある「ミュージック・ラウンジ」、毎回应募が殺到し、嬉しい悲鳴を上げている「まちかど・まちなかコンサート」、雅楽師の東儀秀樹が伝統と現代をミックスさせた「世田谷アーティスト支援企画『Discovery Setagaya Sounds』」など、世田谷ならではの企画として、着実に進化を見せた。そんな中で、宮川彬良スペシャル・プロデューサーが、観客と交流しながら、おしゃべりする『サロン』を開催。10年間の総集編となった「せたがや音楽研究所」の今後を探った。

令和6年度こそ、いよいよ新世田谷区民会館が開館する。万全の準備をしつつ、同時にまた、世田谷区全体を見つめて、せたおんもリニューアルを続けていく。

(4)国際事業部

新型コロナウイルスの5類感染症への移行により、概ね事業を予定通りに実施することができた。

市民活動支援では、今後の課題としてより世田谷らしさを出すために区内で活動する団体や大学と連携していく。外国人からの相談に対しては適切な窓口を案内することを基本としているが、1月の能登半島地震をきっかけに防災に関する問い合わせも増えてきており、より幅広い分野の相談にも対応できるよう、知識の蓄積と関係機関との連携強化を目指す。

世田谷区と共催の「国際メッセ」は、今回から国際交流センターのブースを出すだけでなく、区内大学の留学生と区民が英会話による交流を行う「イングリッシュテーブル」を担当した。区民の参加者は多く、また留学生からも楽しかったという意見が多かった。なお、「国際交流 IN セタがや」は、規模を縮小しての開催となった。

(公財)世田谷区産業振興公社と連携した「まち歩き」は令和6年度以降も継続する。より多くの外国人参加者を募るため、アイデアを練っていききたい。

「子ども企画」は、昨年に引き続き小学校5、6年生を対象にタンザニア大使館訪問を実施した。これまでは対象小学校を絞っていたが、公募で実施する方法や訪問する大使館を広げる可能性を模索していく。

「多文化理解講座」は予定の7回を実施した。よりタイムリーな話題をテーマにすることで集客力が高まると思われる。参加者が固定化しつつあるので、広げていく工夫が必要である。これまでは対象者が日本人であることが多かったが今後は外国人を対象とした日本文化紹介の事業も実施していく。

テンプル大学ジャパンキャンパスで実施する「にほんご交流会」は定着しつつあり、参加希望者が多い。しかし、土曜日に実施しているにも関わらず参加者は高齢者が多いため、若い人たちの参加やテンプル大学ジャパンキャンパス以外での実施についても進めていく。

外国人区民だけではなく、国際交流センターで勤務する外国人のより一層の活躍の場を広げるためのアイデアを議論し、実施していく。

国際交流センターの認知度がまだ低く、参加者が限定されている。ホームページやSNS、メールマガジンなどによる電子媒体による発信や Newsletter などの紙媒体の発行に加え、実際の活動場面でのPRや、メディアへの情報提供など広報に力を入れていく必要がある。

(5)世田谷美術館

令和5年度は、コロナ禍が一定の落ち着きを取り戻したが、引き続き感染症防止対策に配慮しつつ、事業規模をコロナ禍以前の状態に戻すことに努めた。展覧会のオンラインチケット販売も、時間指定の枠組みを緩和し、利用者のストレス軽減に結びつけた。

令和5年度も5つの企画展を実施した。「麻生三郎展」は、作家が三軒茶屋在住時代に制作した作品を中心に構成し、彼が所蔵していたベン・シャーン作品と並列することで、新たな視点で作家の画想を紹介し、麻生三郎の愛好者が満足するだけでなく、麻生を知らない若い世代へも作家の魅力を知ってもらう機会となった。「マルク・シャガール 版にのしるした光の詩」展は、夏休み期間ということもあり、予想以上の来場者で図録も完売した。版画集ということで、物語のテキストをパネルにし、作品と併せて読むことで、諸作品への理解を深めていただけ、じっくりと時間をかけて鑑賞する来場者も多かった。「土方久功と柚木沙弥郎」展では、当館が所蔵する作品を、意外な組み合わせで活用。年代も経歴も異なる一見接点のまったく

ない両者の作品を、出合わせることで、それぞれが獲得した個人的で独特な創造の喜びを感じていただけた場となり、展覧会を機に両方の作家の魅力を知ってもらう機会となった。柚木氏は会期中に101歳を迎え、会場にも足を運んだが、令和6年1月31日に他界し、これが生前の最後の展覧会となった。「倉俣史朗のデザイン」展は、予想をはるかに超える来場者で、当館で販売分の図録が完売し、会期終盤はネット販売で対応した。在りし日の倉俣を知る年代だけでなく、デザインに関心を持つ若い世代や海外からの来場者なども多く、NHK[日曜美術館]でも特集が組まれるなど、多くのメディアも本展をとりあげた。没後30年以上経てもなお、倉俣が遺したデザインは人々を魅了し、本展によって更に新たな世代や客層にその魅力を知ってもらう絶好の機会となった。「美術家たちの沿線物語 小田急線篇」は、「美術家たちの沿線物語」シリーズの第4弾であり、その掉尾を飾る企画だった。開催時期の一部を「美術家たちの沿線物語 京王線篇」(ミュージアム コレクション)と重複させ、全館で、世田谷の文化的土壌の厚みを示す展覧会となり、美術館の開館記念日には両展覧会を無料観覧とし、多くの区民が来場し、地元への関心を高めていただく機会となった。世田谷文学館や、世田谷区立郷土資料館の資料を借用して展示の充実を図るほか、音楽事業部音楽監督の池辺晋一郎氏の講演会などを開催したほか、成城学園との協力を得て「街歩きでめぐる成城100年」の関連企画を実施した。ミュージアム コレクション(収蔵品)では、このほか、日本の戦後前衛芸術の端緒を拓いた二人の作家を取り上げた「山口勝弘と北代省三展」、そしてこれが初公開となる『世界』(岩波書店)のカット原画を紹介する「雑誌にみるカットの世界」を開催し、出版関係者からも注目を浴びた。

各分館においても、それぞれに年間2回の企画展を開催し、本館のサテライト機能を発揮しつつ、各館の個性的な事業を展開し、特に向井潤吉アトリエ館は30周年を、清川泰次記念ギャラリーは20周年を迎え、周年記念として設けた無料観覧日には多くの来場者で賑わった。

普及事業の領域では、美術鑑賞教室もコロナ禍以前に戻り、インターン(学生)による小学校各校への出張授業も再開した。成人講座「美術大学」は、定員60人の枠に対し40人まで定員を戻し、午前、午後のフルタイムでのプログラムを実施。卒業生からはボランティアに登録をする方もあった。恒例の「さくら祭」は、桜の開花状況で、年度初めと年度末、それぞれ実施し、いずれも多くのボランティア、友の会会員の多大な協力をいただいた。

また、令和4年度からの新たな試みとして立ち上げた身体表現やパフォーマンス表現を行う若手アーティスト支援プログラムは2回目を実施。計15日間にわたって当館に滞在した演劇家の藤原佳奈によるレジデンス滞在報告書(ネット note にて公開中)からは、本企画がアーティストの創作を深める貴重な機会となったことがわかる。

広報事業においては、各種 SNS の活用に注力した。ビジュアル効果を意識した画像とテキストをInstagramに継続的に配信し、確実にフォロワー数を増やしている。また、展覧会の見どころを短い時間で魅力的に紹介する YouTube 動画も展覧会毎に公開し、登録者数が増加。今年度からホームページに新設したお問い合わせフォームには、日々市民から様々な問い合わせがあり、利用者サービスの向上へと繋がっている。

美術作品・資料の収集事業では、作家、遺族、関係者との良好な関係の構築、また日常の調査研究を土台に、令和5年度も数多くの貴重な作品、諸資料を収蔵することができ、調査研究は紀要にも反映された。今後も美術館の社会的役割である保存、研究、公開に努めていきたい。

その他、アートライブラリー、区民ギャラリー、カフェ、レストランなど、美術館の機能を十分に活かし、今後多文化共生、社会動向を意識し、事業を展開したい。

(6)世田谷文学館

令和5年度の企画展は「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」「江口寿史展 ノット・コンプリーテッド」の2本を実施した。いずれも現在活躍中の作家であり、熱心なファンを中心に、幅広い年齢層の来館者が集まる活気あふれる企画展となった。作家本人出演の関連イベントも好評だった。夏には「石黒亜矢子展」に関連して、メディアアートを活用して作中のキャラクターと相撲する「どっせい！ねこまたずもう～夏場所～」を開催し、子どもたちを中心に人気を集めた。令和5年度はコロナ禍のような制限がなくなり、再び、文学館で直に作家の世界に触れていただく喜びを取り戻してもらえるラインナップをお届けすることができた。

資料の公開については大きな成果を上げた。『収蔵資料〈調査と探究〉01 石川淳／椎名麟三〔上巻〕』を刊行し、所蔵資料をひろく一般に供することができた。当館の収蔵資料は今後の文学研究において、極めて重要な位置づけにある。次年度は『収蔵資料〈調査と探究〉02 石川淳／椎名麟三〔下巻〕』を刊行する予定であり、継続して調査・研究を充実させていく。

「どこでも文学館」は例年どおり、30か所の出張展示をはじめ、多数のワークショップを実施した。出張展示にあたっては、施設先のスタッフや生徒に任せるなど、作業自体から楽しんでもらう試みも始めた。長年積み上げてきた事業ならではの進化も遂げており、基幹事業としての役割がさらに増した。

また令和5年度は会員制の利用者サービスとして「セタブンパス」を開始したほか、オリジナルコンテンツの配信を行うなど、利用者に文学館をより身近に感じてもらうようなサービスの充実・強化に取り組んだ。特にオンライン配信は場所と時間の制約がないため、文学館に物理的に来られない方々にも利用いただけることと、文学館の存在をひろくアピールできる点も期待が大きい。そのためには実際に訪れて感じていただける感動と同質のコンテンツを開発していくことが今後の課題である。

令和7年に世田谷文学館は、いよいよ30周年を迎える。時代が目まぐるしく変化する中で、30年の歩みで培った強みを大事にしながらも、常に新しいチャレンジを恐れない文学館として、来るべき周年の年を迎えたい。

4. 重要な契約の概要

契約件名	契約年月日	相手方	契約の概要
世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定	令和5年4月1日	世田谷区長	1 (公財)せたがや文化財団は、世田谷区立世田谷美術館、世田谷区立世田谷文学館、世田谷区立世田谷文化生活情報センターの指定管理者として、世田谷区立世田谷美術館条例第18条、世田谷区立世田谷文学館条例第18条及び世田谷区立世田谷文化生活情報センター条例第20条の規定により、次に掲げる業務を行う。 (1)世田谷区立世田谷美術館 ① 美術館条例第2条第2号から第8号までに規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② 美術館の利用の承認等に関する業務 ③ 美術館の施設及び施設の維持管理に関する業務 ④ その他、世田谷区が必要と認める業務 (2)世田谷区立世田谷文学館 ① 文学館条例第2条第2号から第7号までに規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② 文学館の利用の承認等に関する業務 ③ 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務 ④ その他、世田谷区が必要と認める業務 (3)世田谷区立世田谷文化生活情報センター ① センター条例第2条各号に規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② センターの施設及び設備の維持管理に関する業務 ③ その他、世田谷区が必要と認める業務 2 指定期間は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間とする。
世田谷区文化施設の管理に関する年度協定	令和5年4月1日	世田谷区長	1 (公財)せたがや文化財団は、世田谷区立世田谷美術館、世田谷区立世田谷文学館、世田谷区立世田谷文化生活情報センターの指定管理者として、世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定及び年度協定の仕様書に定める業務を行う。 2 協定期間は令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間とする。

5. 登記事項

理事変更登記

令和5年4月6日登記

令和5年3月31日付変更（1名辞任）

令和5年4月1日付変更（1名就任）

令和5年6月28日登記

令和5年6月15日付変更（10名重任、1名退任、1名就任）

監事変更登記

令和5年6月28日登記

令和5年6月15日付変更（1名重任、1名退任、1名就任）

評議員変更登記

令和5年6月28日登記

令和5年6月15日付変更（8名重任、3名退任、2名就任）

6. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

回	開催日	議案番号	件 名
第1回 定時 (オンライン併用)	令和5年 5月25日	議案第1号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団事業報告について
		議案第2号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団決算について
		議案第3号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団第1回評議員会(定時)の招集について
		報告事項	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団事業助成の受諾について
			公益財団法人せたがや文化財団理事長、常務理事の職務執行状況について
第2回 臨時 (オンライン併用)	令和5年 6月15日	議案第4号	公益財団法人せたがや文化財団理事長の選定について
		議案第5号	公益財団法人せたがや文化財団常務理事の選定について
		議案第6号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第一次)について
第3回 定時 (オンライン併用)	令和6年 2月29日	議案第7号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第二次)について
		議案第8号	令和6年度公益財団法人せたがや文化財団事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
		議案第9号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団第2回評議員会(臨時)の招集について
		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団諸規程の一部改正について
			世田谷パブリックシアター油圧舞台装置作動油噴出事故について
			公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について(最終報告)
			公益財団法人せたがや文化財団理事長、常務理事の職務執行状況について
第4回 臨時 (書面開催)	令和6年 3月22日	議案第10号	公益財団法人せたがや文化財団常務理事の選定について
		議案第11号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団第3回評議員会(臨時)の招集について

(2) 評議員会

回	開催日	議案番号	件 名
第 1 回 定時 (オンライン併用)	令和 5 年 6 月 15 日	議案第 1 号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団事業報告について
		議案第 2 号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団決算について
		議案第 3 号	公益財団法人せたがや文化財団評議員の選任について
		議案第 4 号	公益財団法人せたがや文化財団理事の選任について
		議案第 5 号	公益財団法人せたがや文化財団監事の選任について
第 2 回 臨時 (オンライン併用)	令和 6 年 3 月 14 日	議案第 6 号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第一次)について
		議案第 7 号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第二次)について
		議案第 8 号	令和6年度公益財団法人せたがや文化財団事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
		議案第 9 号	公益財団法人せたがや文化財団理事長の報酬について
		議案第 10 号	公益財団法人せたがや文化財団理事の選任について
		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団諸規程の一部改正について
			世田谷パブリックシアター油圧舞台装置作動油噴出事故について
			公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について(最終報告)
第 3 回 臨時 (書面開催)	令和 6 年 3 月 25 日	議案第 11 号	公益財団法人せたがや文化財団監事の選任について

7. 役員名簿

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

【理事:11 名】

【任期:令和 5 年 6 月 15 日から令和 7 年度定時評議員会の終結の時まで】

役職名	氏 名	備 考
理 事 長	青 柳 正 規	公益財団法人せたがや文化財団 理事長
常務理事	高 萩 宏	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文化生活情報センター館長
常務理事	酒 井 忠 康	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館館長
常務理事	亀 山 郁 夫	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館館長
常務理事	志 賀 毅 一	公益財団法人せたがや文化財団 事務局長
理 事	熊 谷 吏 夏	弁護士
理 事	桑 島 俊 彦	東京都商店街振興組合連合会理事・最高顧問
理 事	鴻 巣 友 季 子	文芸評論家、大学講師
理 事	武 濤 京 子	昭和音楽大学名誉教授・客員教授
理 事	名 児 耶 明	筆の里工房副館長
理 事	板 東 久 美 子	日本赤十字社常任理事

【監事:2 名】

【任期:令和 5 年 6 月 15 日から令和 9 年度定時評議員会の終結の時まで】

監 事	太 田 一 郎	世田谷区会計管理者
監 事	山 本 嶋 子	公認会計士

8. 評議員名簿

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

【評議員:10 名】

【任期:令和 5 年 6 月 15 日から令和 9 年度定時評議員会の終結の時まで】

氏 名	備 考
秋 山 光 文	お茶の水女子大学名誉教授 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団理事長
朝 生 公 章	区内企業代表
上 田 啓 子	世田谷区町会総連合会副会長
大 笹 吉 雄	演劇評論家
齋 藤 啓 子	武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科教授
佐々木 健二	弁護士
島 田 成 年	東京商工会議所世田谷支部副会長
田 村 哲 夫	学校法人渋谷教育学園理事長 学校法人青葉学園理事長
沼 野 雄 司	桐朋学園大学教授
萩 原 朔 美	多摩美術大学名誉教授 前橋文学館館長

9. 財団幹部名簿

(令和6年3月31日現在)

職 務 名	氏 名	備 考
理事長	青 柳 正 規	
事務局長	志 賀 毅 一	常務理事
統括部長	山 田 実	
世田谷文化生活情報センター館長	高 萩 宏	常務理事
副館長	木 本 義 彦	
総務部長	木 本 義 彦	副館長事務取扱
生活工房室長	福 岡 綾 子	
劇場部長	小 林 千 洋	
技術部長	福 田 純 平	
音楽事業部長	蓑 輪 勇 二	
国際事業部長	久 末 佳 枝	
世田谷美術館館長	酒 井 忠 康	常務理事
副館長	橋 本 善 八	
総務部長	橋 本 善 八	副館長事務取扱
学芸部長	村 上 由 美	
世田谷文学館館長	亀 山 郁 夫	常務理事
副館長	花 房 千 里	
総務部長	花 房 千 里	副館長事務取扱
学芸部長	中 垣 理 子	

芸術監督	白 井 晃	
音楽監督	池 辺 晋 一 郎	

財 務 諸 表

1. 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度		前年度		増 減	
I 資産の部						
1. 流動資産						
①現金預貯金	549,647,701		656,930,131		△ 107,282,430	
②未収入金	240,553,896		179,845,815		60,708,081	
③商品	38,230,183		36,149,450		2,080,733	
④貯蔵品	360,131		394,935		△ 34,804	
⑤繰延事業費	16,500,000		33,008,800		△ 16,508,800	
⑥前払金	10,109,804		4,600,096		5,509,708	
流 動 資 産 合 計	855,401,715		910,929,227		△ 55,527,512	
2. 固定資産						
(1)基本財産						
①国公債	712,810,562		751,082,696		△ 38,272,134	
②預貯金	87,189,438		48,917,304		38,272,134	
基 本 財 産 合 計	800,000,000		800,000,000		0	
(2)特定資産						
①退職給付引当資産	270,653,954		267,796,451		2,857,503	
②使途指定寄付積立資産	8,790,978		8,172,166		618,812	
特 定 資 産 合 計	279,444,932		275,968,617		3,476,315	
(3)その他の固定資産						
①建物附属設備	82,869,411		77,299,489		5,569,922	
減価償却累計額	△ 47,755,699	35,113,712	△ 40,333,766	36,965,723	△ 7,421,933	△ 1,852,011
②器具備品	154,205,678		149,107,598		5,098,080	
減価償却累計額	△ 115,942,741	38,262,937	△ 104,370,145	44,737,453	△ 11,572,596	△ 6,474,516
③リース資産	99,876,302		96,766,492		3,109,810	
減価償却累計額	△ 72,271,419	27,604,883	△ 52,267,353	44,499,139	△ 20,004,066	△ 16,894,256
④ソフトウェア	23,963,302		8,790,585		15,172,717	
⑤保証金等	60,000		60,000		0	
⑥大規模事業等実施積立金	31,500,000		31,500,000		0	
⑦経営安定化積立金	215,000,000		215,000,000		0	
⑧事故対策積立金	90,000,000		90,000,000		0	
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	461,504,834		471,552,900		△ 10,048,066	
固 定 資 産 合 計	1,540,949,766		1,547,521,517		△ 6,571,751	
資 産 合 計	2,396,351,481		2,458,450,744		△ 62,099,263	
II 負債の部						
1. 流動負債						
①未払金	256,684,331		279,249,518		△ 22,565,187	
②前受金	26,228,860		26,075,620		153,240	
③預り金	105,867,047		149,872,058		△ 44,005,011	
④賞与引当金	56,926,662		32,545,726		24,380,936	
⑤リース債務	16,176,288		20,154,262		△ 3,977,974	
流 動 負 債 合 計	461,883,188		507,897,184		△ 46,013,996	
2. 固定負債						
①退職給付引当金	270,653,954		267,796,451		2,857,503	
②リース債務	12,733,142		25,947,130		△ 13,213,988	
③長期前受金	1,433,260		2,273,060		△ 839,800	
固 定 負 債 合 計	284,820,356		296,016,641		△ 11,196,285	
負 債 合 計	746,703,544		803,913,825		△ 57,210,281	
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
①受取寄附金	8,790,978		8,172,166		618,812	
②世田谷区出捐金	800,000,000		800,000,000		0	
指定正味財産合計	808,790,978		808,172,166		618,812	
(うち基本財産への充当額)	(800,000,000)		(800,000,000)		(0)	
(うち特定資産への充当額)	(8,790,978)		(8,172,166)		(618,812)	
2. 一般正味財産	840,856,959		846,364,753		△ 5,507,794	
(うち基本財産への充当額)	(0)		(0)		(0)	
(うち特定資産への充当額)	(0)		(0)		(0)	
正 味 財 産 合 計	1,649,647,937		1,654,536,919		△ 4,888,982	
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	2,396,351,481		2,458,450,744		△ 62,099,263	

2. 損益計算書(正味財産増減計算書)

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：円)

科 目		当年度	前年度	増 減
I	一般正味財産の部			
1	経常増減の部			
	(1) 経常収益			
	基本財産運用益	2,547,228	2,869,012	△ 321,784
	基本財産運用益	2,547,228	2,869,012	△ 321,784
	特定資産運用益	1,082,140	680,783	401,357
	特定資産運用益	1,082,140	680,783	401,357
	事業収益	1,421,093,488	1,353,162,455	67,931,033
	事業運営収益	716,374,978	781,560,695	△ 65,185,717
	区事業等受託収益	704,718,510	571,601,760	133,116,750
	受取区補助金	1,203,383,836	1,237,741,000	△ 34,357,164
	受取区補助金	1,203,383,836	1,237,741,000	△ 34,357,164
	受取助成金等	119,106,204	114,563,812	4,542,392
	受取助成金等	119,106,204	114,563,812	4,542,392
	受取寄附金	0	0	0
	受取寄附金	0	0	0
	受取負担金	18,120,921	13,903,762	4,217,159
	受取負担金	18,120,921	13,903,762	4,217,159
	雑収益	194,903	346,428	△ 151,525
	雑収益	71,446	223,841	△ 152,395
	受取利息	123,457	122,587	870
	経 常 収 益 計	2,765,528,720	2,723,267,252	42,261,468
	(2) 経常費用			
	事業費	2,761,948,874	2,646,145,123	115,803,751
	給料手当等	792,243,974	774,540,966	17,703,008
	賞与引当金繰入	56,899,727	32,531,539	24,368,188
	退職給付費用	23,010,930	31,334,237	△ 8,323,307
	交際費	437,728	344,084	93,644
	式典費	188,414	82,008	106,406
	会議費	108,681	85,391	23,290
	旅費交通費	6,267,116	4,313,968	1,953,148
	通信運搬費	9,798,647	8,653,213	1,145,434
	消耗経費	37,625,056	45,500,970	△ 7,875,914
	印刷製本費	42,837,577	41,214,367	1,623,210
	保険料	3,994,860	3,802,432	192,428
	修繕費	22,221,796	19,170,122	3,051,674
	光熱水費	10,729,361	11,774,219	△ 1,044,858
	諸謝金	50,436,054	37,296,892	13,139,162
	支払負担金	15,686,193	24,975,483	△ 9,289,290
	委託費	867,828,737	838,528,331	29,300,406
	使用料及び賃借料	47,524,174	47,460,034	64,140

(単位：円)

科 目		当年度	前年度	増 減
	支払手数料	24,506,479	28,890,968	△ 4,384,489
	広報宣伝費	78,749,052	92,020,938	△ 13,271,886
	臨時雇賃金	82,374,531	79,209,199	3,165,332
	租税公課	24,923,020	25,744,846	△ 821,826
	上演出演料	289,467,037	249,907,749	39,559,288
	舞台費	152,333,907	130,884,691	21,449,216
	制作企画費	66,564,601	65,866,478	698,123
	商品仕入	6,799,238	5,005,077	1,794,161
	減価償却費	46,928,666	45,100,431	1,828,235
	支払利息（リース債務）	1,419,128	1,903,992	△ 484,864
	雑費	44,190	2,498	41,692
	管理費	6,776,141	5,942,692	833,449
	役員報酬	5,203,344	4,957,635	245,709
	給料手当等	505,374	506,642	△ 1,268
	賞与引当金繰入	26,935	14,187	12,748
	退職給付費用	12,468	14,093	△ 1,625
	通信運搬費	59,442	58,306	1,136
	消耗経費	4,223	3,770	453
	保険料	14,750	14,750	0
	委託費	311,850	237,600	74,250
	減価償却費	637,755	135,709	502,046
	経 常 費 用 計	2,768,725,015	2,652,087,815	116,637,200
	当期経常増減額	△ 3,196,295	71,179,437	△ 74,375,732
2	経常外増減の部			
(1)	経常外収益			
	経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2)	経常外費用			
	流動資産除却損	557,504	39,378	518,126
	流動資産除却損	557,504	39,378	518,126
	商品除却損	557,504	39,378	518,126
	固定資産除却損	5	0	5
	固定資産除却損	5	0	5
	固定資産除却損	5	0	5
	雑損	25,890	0	25,890
	雑損	25,890	0	25,890
	雑損	25,890	0	25,890
	経 常 外 費 用 計	583,399	39,378	544,021
	当期経常外増減額	△ 583,399	△ 39,378	△ 544,021
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 3,779,694	71,140,059	△ 74,919,753
	法人税、都民税及び事業税	1,728,100	786,700	941,400
	当期一般正味財産増減額	△ 5,507,794	70,353,359	△ 75,861,153
	一般正味財産期首残高	846,364,753	776,011,394	70,353,359
	一般正味財産期末残高	840,856,959	846,364,753	△ 5,507,794

(単位：円)

科 目		当年度	前年度	増 減
Ⅱ	指定正味財産の部			
	受取寄附金	618,812	1,706,166	△ 1,087,354
	基本財産運用益	2,547,228	2,869,012	△ 321,784
	特定資産受取利息	0	65	△ 65
	一般正味財産への振替額	2,547,228	2,869,077	△ 321,849
	当期指定正味財産増減額	618,812	1,706,166	△ 1,087,354
	指定正味財産期首残高	808,172,166	806,466,000	1,706,166
	指定正味財産期末残高	808,790,978	808,172,166	618,812
Ⅲ	正味財産期末残高	1,649,647,937	1,654,536,919	△ 4,888,982

(1)損益計算書(正味財産増減計算書) 内訳表

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
I	一般正味財産の部			
1	経常増減の部			
(1)	経常収益			
	基本財産運用益	0	0	0
	基本財産運用益	0	0	0
	基本財産運用益	0	0	0
	特定資産運用益	1,082,140	0	1,082,140
	特定資産運用益	1,082,140	0	1,082,140
	特定資産運用益	1,082,140	0	1,082,140
	事業収益	1,372,017,724	531,565	1,372,549,289
	事業運営収益	667,299,214	531,565	667,830,779
	事業運営収益	667,299,214	531,565	667,830,779
	区事業等受託収益	704,718,510	0	704,718,510
	指定管理受託収益	645,030,000	0	645,030,000
	区事業受託収益	59,688,510	0	59,688,510
	受取区補助金	1,162,581,836	40,802,000	1,203,383,836
	受取区補助金	1,162,581,836	40,802,000	1,203,383,836
	受取区補助金	1,162,581,836	40,802,000	1,203,383,836
	受取助成金等	119,106,204	0	119,106,204
	受取助成金等	119,106,204	0	119,106,204
	受取助成金	119,106,204	0	119,106,204
	受取負担金	11,726,737	0	11,726,737
	受取負担金	11,726,737	0	11,726,737
	受取負担金	11,726,737	0	11,726,737
	雑収益	194,903	0	194,903
	雑収益	71,446	0	71,446
	雑収益	71,446	0	71,446
	受取利息	123,457	0	123,457
	受取利息	123,457	0	123,457
	経常収益計	2,666,709,544	41,333,565	2,708,043,109

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
0	0	0	2,547,228		2,547,228
0	0	0	2,547,228		2,547,228
0	0	0	2,547,228		2,547,228
0	0	0	0		1,082,140
0	0	0	0		1,082,140
0	0	0	0		1,082,140
45,487,754	3,056,445	48,544,199	0		1,421,093,488
45,487,754	3,056,445	48,544,199	0		716,374,978
45,487,754	3,056,445	48,544,199	0		716,374,978
0	0	0	0		704,718,510
0	0	0	0		645,030,000
0	0	0	0		59,688,510
0	0	0	0		1,203,383,836
0	0	0	0		1,203,383,836
0	0	0	0		1,203,383,836
0	0	0	0		119,106,204
0	0	0	0		119,106,204
0	0	0	0		119,106,204
393,920	6,000,264	6,394,184	0		18,120,921
393,920	6,000,264	6,394,184	0		18,120,921
393,920	6,000,264	6,394,184	0		18,120,921
0	0	0	0		194,903
0	0	0	0		71,446
0	0	0	0		71,446
0	0	0	0		123,457
0	0	0	0		123,457
45,881,674	9,056,709	54,938,383	2,547,228	0	2,765,528,720

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
	(2) 経常費用			
	事業費	2,685,281,609	41,344,240	2,726,625,849
	給料手当等	768,240,425	23,012,098	791,252,523
	賞与引当金繰入	54,526,375	2,290,262	56,816,637
	退職給付費用	22,912,628	66,096	22,978,724
	交際費	437,728	0	437,728
	式典費	188,414	0	188,414
	会議費	108,681	0	108,681
	旅費交通費	6,253,376	13,740	6,267,116
	通信運搬費	8,919,632	52,027	8,971,659
	消耗経費	35,896,074	988,425	36,884,499
	印刷製本費	42,405,312	93,705	42,499,017
	保険料	3,972,253	22,607	3,994,860
	修繕費	22,221,796	0	22,221,796
	光熱水費	4,432,643	0	4,432,643
	諸謝金	50,127,794	308,260	50,436,054
	支払負担金	15,664,193	22,000	15,686,193
	委託費	843,910,162	10,985,600	854,895,762
	使用料及び賃借料	44,927,177	1,840,719	46,767,896
	支払手数料	20,423,484	10,585	20,434,069
	広報宣伝費	78,722,353	26,699	78,749,052
	臨時雇賃金	80,904,248	1,470,283	82,374,531
	租税公課	24,031,140	9,137	24,040,277
	上演出演料	289,467,037	0	289,467,037
	舞台費	152,333,907	0	152,333,907
	制作企画費	66,481,933	82,668	66,564,601
	商品仕入	849	0	849
	減価償却費	46,333,353	49,329	46,382,682
	支払利息（リース債務）	1,419,128	0	1,419,128
	雑費	19,514	0	19,514

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
28,303,796	7,019,229	35,323,025			2,761,948,874
811,266	180,185	991,451			792,243,974
66,579	16,511	83,090			56,899,727
26,415	5,791	32,206			23,010,930
0	0	0			437,728
0	0	0			188,414
0	0	0			108,681
0	0	0			6,267,116
721,388	105,600	826,988			9,798,647
740,557	0	740,557			37,625,056
338,560	0	338,560			42,837,577
0	0	0			3,994,860
0	0	0			22,221,796
240,253	6,056,465	6,296,718			10,729,361
0	0	0			50,436,054
0	0	0			15,686,193
12,932,975	0	12,932,975			867,828,737
703,076	53,202	756,278			47,524,174
4,072,410	0	4,072,410			24,506,479
0	0	0			78,749,052
0	0	0			82,374,531
737,288	145,455	882,743			24,923,020
0	0	0			289,467,037
0	0	0			152,333,907
0	0	0			66,564,601
6,798,389	0	6,798,389			6,799,238
89,964	456,020	545,984			46,928,666
0	0	0			1,419,128
24,676	0	24,676			44,190

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
	管理費			
	役員報酬			
	給料手当等			
	賞与引当金繰入			
	退職給付費用			
	通信運搬費			
	消耗経費			
	保険料			
	委託費			
	減価償却費			
	経 常 費 用 計	2,685,281,609	41,344,240	2,726,625,849
	当期経常増減額	△ 18,572,065	△ 10,675	△ 18,582,740
2	経常外増減の部			
	(1) 経常外収益			
	経 常 外 収 益 計	0	0	0
	(2) 経常外費用			
	流動資産除却損	0	0	0
	流動資産除却損	0	0	0
	商品除却損	0	0	0
	固定資産除却損	5	0	5
	固定資産除却損	5	0	5
	固定資産除却損	5	0	5
	雑損	25,890	0	25,890
	雑損	25,890	0	25,890
	雑損	25,890	0	25,890
	経 常 外 費 用 計	25,895	0	25,895
	当期経常外増減額	△ 25,895	0	△ 25,895
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 18,597,960	△ 10,675	△ 18,608,635
	他会計振替額	9,764,349	0	9,764,349
	法人税、都民税及び事業税	0	0	0
	当期一般正味財産増減額	△ 8,833,611	△ 10,675	△ 8,844,286
	一般正味財産期首残高	667,231,873	27,814,606	695,046,479
	一般正味財産期末残高	658,398,262	27,803,931	686,202,193

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
			6,776,141		6,776,141
			5,203,344		5,203,344
			505,374		505,374
			26,935		26,935
			12,468		12,468
			59,442		59,442
			4,223		4,223
			14,750		14,750
			311,850		311,850
			637,755		637,755
28,303,796	7,019,229	35,323,025	6,776,141	0	2,768,725,015
17,577,878	2,037,480	19,615,358	△ 4,228,913	0	△ 3,196,295
0	0	0	0	0	0
557,504	0	557,504	0		557,504
557,504	0	557,504	0		557,504
557,504	0	557,504	0		557,504
0	0	0	0		5
0	0	0	0		5
0	0	0	0		5
0	0	0	0		25,890
0	0	0	0		25,890
0	0	0	0		25,890
557,504	0	557,504	0	0	583,399
△ 557,504	0	△ 557,504	0	0	△ 583,399
17,020,374	2,037,480	19,057,854	△ 4,228,913	0	△ 3,779,694
△ 8,720,440	△ 1,043,909	△ 9,764,349	0		0
1,543,349	184,751	1,728,100	0		1,728,100
6,756,585	808,820	7,565,405	△ 4,228,913	0	△ 5,507,794
137,089,067	15,540,738	152,629,805	△ 1,311,531	0	846,364,753
143,845,652	16,349,558	160,195,210	△ 5,540,444	0	840,856,959

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
Ⅱ 指定正味財産の部				
	受取寄附金	618,812	0	618,812
	基本財産運用益	0	0	0
	特定資産受取利息	0	0	0
	一般正味財産への振替額	0	0	0
	当期指定正味財産増減額	618,812	0	618,812
	指定正味財産期首残高	8,172,166	0	8,172,166
	指定正味財産期末残高	8,790,978	0	8,790,978
Ⅲ 正味財産期末残高		667,189,240	27,803,931	694,993,171

(単位:円)

（単位：円）

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
0	0	0	0		618,812
0	0	0	2,547,228		2,547,228
0	0	0	0		0
0	0	0	2,547,228	0	2,547,228
0	0	0	0	0	618,812
0	0	0	800,000,000	0	808,172,166
0	0	0	800,000,000	0	808,790,978
143,845,652	16,349,558	160,195,210	794,459,556	0	1,649,647,937

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得価額と債券金額の差が金利の調整と認められるため償却原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品については、最終仕入原価法を採用している。

(3) 固定資産の評価方法

有形固定資産については定額法により減価償却を実施している。

無形固定資産については定額法により減価償却を実施している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金については、職員に対する退職給付金の支給に備えるため、職員退職手当支給規程に基づく期末要支給額を計上している。

賞与引当金については、職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

平成20年4月以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準」等を適用し、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引にかかる方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上している。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税込み方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
国 公 債	751,082,696	109,528,300	147,800,434	712,810,562
定 期 預 貯 金	30,000,000	50,000,000	0	80,000,000
普 通 預 金	18,917,304	147,785,134	159,513,000	7,189,438
小 計	800,000,000	307,313,434	307,313,434	800,000,000
特定資産				
退 職 給 付 引 当 資 産	267,796,451	22,151,287	19,293,784	270,653,954
使途指定寄附積立資産	8,172,166	618,812	0	8,790,978
小 計	275,968,617	22,770,099	19,293,784	279,444,932
合 計	1,075,968,617	330,083,533	326,607,218	1,079,444,932

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
国 公 債	712,810,562	(712,810,562)	—	—
定 期 預 貯 金	80,000,000	(80,000,000)	—	—
普 通 預 金	7,189,438	(7,189,438)	—	—
小 計	800,000,000	(800,000,000)	—	—
特定資産				
退 職 給 付 引 当 資 産	270,653,954	—	—	(270,653,954)
使途指定寄附積立資産	8,790,978	(8,790,978)	—	—
小 計	279,444,932	(8,790,978)	—	(270,653,954)
合 計	1,079,444,932	(808,790,978)	—	(270,653,954)

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳 簿 価 額	時 価	評 価 損 益
第 741 回東京都公募公債	100,000,000	100,268,800	268,800
第 116 回名古屋高速道路債券	104,160,656	103,418,000	△742,656
第 138 回名古屋高速道路債券	100,000,000	98,920,000	△ 1,080,000
第 155 回名古屋高速道路債券	200,000,000	192,340,000	△ 7,660,000

科 目	帳 簿 価 額	時 価	評 価 損 益
令和4年度第2回大分県公募公債	99,868,675	97,940,000	△ 1,928,675
第124回日本高速道路保有・債務返済機構債券	108,781,231	106,100,000	△ 2,681,231
第481回大阪府公募公債	100,000,000	97,620,000	△2,380,000
第236回共同発行市場公募地方債	49,958,470	48,980,000	△ 978,470
第1回群馬県公募公債グリーンボンド	100,000,000	98,880,000	△ 1,120,000
合 計	962,769,032	944,466,800	△ 18,302,232

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補 助 金 等 の 名 称	交 付 者	前 期 末 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 末 残 高	貸借対照表 上の 記載区分
令和5年度 世田谷区補助金	世田谷区	0	1,203,383,836	1,203,383,836	0	
舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)	独立行政法人 日本芸術文化振興会	0	47,498,000	47,498,000	0	
舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)バリアフリー・多言語対応		0	1,942,000	1,942,000	0	
舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)	文化庁	0	17,181,000	17,181,000	0	
令和5年度地域の文化・芸術活動助成事業(研修プログラム)	一般財団法人 地域創造	0	1,200,000	1,200,000	0	
地域の文化・芸術活動助成事業		0	5,000,000	5,000,000	0	
公文教アートキャラバン事業 劇場へ行こう3	一般社団法人 公立文化施設協会	0	16,480,800	16,480,800	0	
民間助成金	26件	0	29,804,404	29,804,404	0	
合 計		0	1,322,490,040	1,322,490,040	0	

7. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	法人等の名称	住所	資産総額	事業の内容 又は職業	議決権の 所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末
						役員	事業				
基本財産の出資	世田谷区	東京都世田谷区	—	・ 公益財団法人せたがや文化財団に対する補助金交付	—	—	補助金事業の委託	財政支援	1,203,383,836	受取補助金等	0
				・ 世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定			業務委託	指定管理	645,030,000	区受託事業収益	0
				・ 事業の業務委託等			業務委託	事業の業務委託、実施委託	59,688,510	区受託事業収益	0

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	2,547,228
合 計	2,547,228

9. その他

平成23年4月1日に公益財団法人に移行している。

3. 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

2. 引当金の明細

賞与引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	32,545,726	56,926,662	32,545,726		56,926,662

退職給付引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	267,796,451	22,151,287	19,293,784		270,653,954

4. 財産目録

(令和6年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	6,305,134
	預貯金	三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	運転資金として	262,875,390
		三菱UFJ銀行世田谷支店		3,696,362
		三菱UFJ銀行成城支店		1,319,861
		みずほ銀行世田谷支店		8,312,260
		三井住友銀行自由が丘支店		52,718,259
		昭和信用金庫本店		129,901
		昭和信用金庫三軒茶屋支店		564,714
		世田谷信用金庫用賀支店		88,720,433
		世田谷信用金庫駒沢支店		5,149,397
		世田谷信用金庫烏山支店		4,762,927
		世田谷桜丘三郵便局		1,386,624
		東京中央農協千歳支店		2,130,025
		世田谷目黒農協本店		111,153,996
		ゆうちょ銀行		422,418
	未収入金		区受託料、助成金、チケット収入など	240,553,896
	商品	各館ショップ等	ミュージアムショップ等の商品	38,230,183
	貯蔵品	手元保管	収入印紙、郵券等	360,131
	繰延事業費	クラウド会計システム	将来に効果が及ぶ費用の繰延	16,500,000
	前払金		翌年度諸経費等	10,109,804
流動資産合計				855,401,715
(固定資産) 基本財産	投資有価証券	第741回東京都公募公債	公益目的事業に必要な法人管理業務の財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	100,000,000
		第116回名古屋高速道路債券		104,160,656
		第138回名古屋高速道路債券		100,000,000
		第155回名古屋高速道路債券		200,000,000
		令和4年度第2回大分県公募公債		99,868,675
		第124回日本高速道路保有・債務返済機構債券		108,781,231
	定期預貯金	東京中央農協千歳支店	公益目的事業に必要な法人管理業務の財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	20,000,000
		世田谷目黒農協本店		50,000,000
		昭和信用金庫本店		10,000,000
	普通預金	三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	公益目的事業に必要な法人管理業務の財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	7,189,438

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
特定資産	退職給付引当資産	・有価証券 第481回大阪府公募公債 第236回共同発行市場公募地方債 第1回群馬県公募公債グリーンボンド	職員に対する退職金の支払いに備えた積立資産	100,000,000
		・定期預金 東京中央農協千歳支店		49,958,470
		・普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店		100,000,000
				10,000,000
				10,695,484
特定資産	使途指定寄付積立資産	・普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	せたがや文化財団の自主事業のための資金として管理	8,790,978
その他の固定資産	建物附属設備	スポットライト、配線設備等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：97.9%	34,376,324
			収益事業：2.1%	737,388
	器具備品	映像・音響システム、展示ケース等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：98.0%	37,497,678
			収益事業：2.0%	765,259
	リース資産	サーバー、パソコン等一式	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：97.6%	26,942,365
			収益事業：0.4%	110,420
			管理費：2.0%	552,098
	ソフトウェア	財団会計システム、美術館・文学館収蔵品管理システム等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：94.9%	22,741,174
			管理費：5.1%	1,222,128
	敷金・保証金	駐車場保証金	公益目的事業の用に供している	60,000
	大規模事業等実施積立金	・定期預金 三菱UFJ銀行世田谷支店 東京中央農協千歳支店	公益目的事業に充当する積立資産	15,000,000
				16,500,000

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
その他の 固定資産	経営安定化積立金	・ 定期預金 昭和信用金庫本店 東京中央農協千歳支店 世田谷目黒農協本店	公益目的事業に充当 する積立資産	70,000,000 20,000,000 120,000,000	
	事故対策積立金	・ 普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	公益目的事業に充当 する積立資産	5,000,000	
		・ 定期預金 世田谷信用金庫用賀支店 世田谷信用金庫烏山支店		60,000,000 30,000,000	
	固定資産合計			1,540,949,766	
資産合計				2,396,351,481	
(流動負債)	未払金		今年度事業費等	235,619,280	
			未払法人税等	1,728,100	
			未払消費税等	5,030,800	
			未払社会保険料等	14,140,889	
	前受金		チケット払い戻し分	165,262	
			翌年度事業チケット 収入、翌年度分施設 利用料	26,228,860	
			預り金	源泉所得税、住民 税、社会保険料等	18,360,771
				チケット代	494,084
	区への補助金返還額			83,732,164	
	受託販売商品の業者 支払い分等			3,280,028	
	賞与引当金		職員の賞与支払いに 備えた引当金	56,926,662	
	リース債務		リース会計処理に伴 う負債(1年以内に支 払うもの)	16,176,288	
流動負債合計			461,883,188		
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対する退職金 支払いに備えた引当 金	270,653,954		
	リース債務	リース会計処理に伴 う負債(1年を超えて 支払うもの)	12,733,142		
	長期前受金	翌々年度以降分施設 利用料	1,433,260		
固定負債合計			284,820,356		
負債合計				746,703,544	
正味財産				1,649,647,937	

監査報告書

公益財団法人せたがや文化財団
理事長 青柳 正規 殿

令和6年5月21日

公益財団法人せたがや文化財団

監事 山本 嶋子 
監事 大澤 正文 

私たち監事は、当財団の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会等の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、当財団の事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書））及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、当財団の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

（2）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当財団の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和6(2024)年6月27日発行

公益財団法人 せたがや文化財団

〒154-0004

東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー5F

TEL 03-5432-1501 FAX 03-5432-1559

MAIL jimukyoku@setagaya-ac.net

URL <https://www.setagaya-bunka.jp>

*この冊子はリサイクルできます